

平成27年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

(平成26年度対象)

平成27年11月

深谷市教育委員会

目 次

1 趣 旨	1 頁
2 点検評価の目的	1 頁
3 点検評価の対象及び方法	2 頁
4 深谷市教育振興基本計画の施策体系	3 頁
5 点検評価表及び重点施策評価表	
I 社会を生き抜く力の育成	
(1) 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	4 頁
(2) 未来を切り拓くための確かな学力の育成	6 頁
(3) 郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	10 頁
(4) 夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	14 頁
(5) 高い志をもつキャリア教育の推進	16 頁
(6) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	20 頁
II たくましく生きるための心と体の育成	
(1) まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	24 頁
(2) いじめ・不登校の防止	28 頁
(3) 生徒指導の充実	32 頁
(4) 人権を尊重した教育の推進	34 頁
(5) 健康の保持増進	38 頁
(6) 体力の向上と学校体育活動の推進	42 頁
III 信頼される学校教育の推進	
(1) 信頼される教職員の育成	44 頁
(2) 子どもたちの安心・安全の確保	48 頁
(3) 学習環境の整備・充実	50 頁
IV 家庭・地域の教育力の向上	
(1) 家庭の教育力の向上	54 頁
(2) 地域の教育力の向上	56 頁

V. 生涯を通じた学習活動の推進

- (1) 学習機会の提供と学習活動の支援 58頁
- (2) 活動施設の整備・充実 60頁
- (3) 図書館の整備・充実 62頁

VI 深谷らしい文化の創造

- (1) 渋沢栄一翁の顕彰 64頁
- (2) 伝統文化の保存・継承と活用 66頁
- (3) 文化・芸術活動の活性化 68頁

VII 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進

- (1) スポーツ・レクリエーション活動の環境整備 70頁
- (2) スポーツ・レクリエーション活動の活性化 72頁

- 6 結びに 74頁

1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、すべての教育委員会は、毎年、教育長及び事務局の事務執行を含む教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとされています。

本市教育委員会では、同法の規定に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすため、「教育委員会の事務執行に関する点検評価」（以下「点検評価」という。）を実施し、報告書にまとめました。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）抜粋

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価の目的

この点検評価は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックすることにより、地域住民に対する説明責任を果たし、効果的な教育行政の推進に資することを目的としています。

3 点検評価の対象及び方法

本市教育行政の基本施策は、平成24年3月に策定された立志と忠恕の深谷教育プラン（以下「深谷市教育振興基本計画」という。）に位置づけられています。

このため、深谷市教育振興基本計画に位置づけられた25施策（中項目）を評価単位として、平成26年度の取組について点検評価を実施しました。

点検評価表のうち、総合評価は、「SABC」評価とし、区別の目安として、

S：計画以上に進んでいる

A：ほぼ計画通りに進んでいる。

B：あまり進んでいない。

C：まったく進んでいない。

としました。

この区別の補足説明として、「課題」「評価コメント」欄を設けるとともに、深谷市教育振興基本計画において各施策に設定されている「成果指標」の欄を設け、平成23年度からの実績値の推移を表で示しました。

また、「意見・提言」の欄には、教育に関し学識を有する方（以下「点検評価者」という。）の御意見や御提言の主なものを施策ごとに示しています。

さらに、各点検評価表に重点施策評価表を添付し、各施策における平成26年度の重点施策及び評価を示しています。

4 深谷市教育振興基本計画 施策体系

基本目標(大項目)	施策(中項目)	点検評価表作成課 (評価表取りまとめ課)	重点施策評価表 作成課
I 社会を生き抜く力の育成	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	学校教育課	教育総務課 学校教育課
	未来を切り拓くための確かな学力の育成	学校教育課	学校教育課
	郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	学校教育課	学校教育課
	夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	学校教育課	学校教育課
	高い志をもつキャリア教育の推進	学校教育課	学校教育課
	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	学校教育課	学校教育課
II たくましく生きるための心と体の育成	まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	学校教育課	学校教育課 図書館
	いじめ・不登校の防止	学校教育課	学校教育課
	生徒指導の充実	学校教育課	学校教育課
	人権を尊重した教育の推進	学校教育課	学校教育課
	健康の保持増進	学校教育課	教育施設課 学校教育課
	体力の向上と学校体育活動の推進	学校教育課	学校教育課
III 信頼される学校教育の推進	信頼される教職員の育成	学校教育課	学校教育課
	子どもたちの安心・安全の確保	学校教育課	学校教育課
	学習環境の整備・充実	教育総務課	-
IV 家庭・地域の教育力の向上	家庭の教育力の向上	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課
	地域の教育力の向上	生涯学習スポーツ振興課	学校教育課 生涯学習スポーツ振興課
V 生涯を通じた学習活動の推進	学習機会の提供と学習活動の支援	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課
	活動施設の整備・充実	生涯学習スポーツ振興課	教育施設課 生涯学習スポーツ振興課
	図書館の整備・充実	図書館	図書館
VI 深谷らしい文化の創造	渋沢栄一翁の顕彰	文化振興課	文化振興課
	伝統文化の保存・継承と活用	文化振興課	文化振興課
	文化・芸術活動の活性化	文化振興課	文化振興課
VII 生涯にわたるスポーツ・レクリエーション活動の推進	スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課
	スポーツ・レクリエーション活動の活性化	生涯学習スポーツ振興課	生涯学習スポーツ振興課

5 点検評価表及び重点施策評価表

基本目標 I 社会を生き抜く力の育成		I - 1						
施策名	「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進		点検評価表 作成課		学校教育課			
施策の方向性	<p>○幼稚園と保育園において家庭との連携・協力した幼児教育を推進するとともに、教職員に対する研修を充実させます。</p> <p>○子どもの発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育を充実するために、小学校との「なめらかな接続」を推進します。</p> <p>○公共施設としての幼稚園、保育園の機能を活用した子育ての支援策の充実に取り組みます。</p>							
施策に関連する主な取組	○質の高い幼児教育の推進		○幼保一体化への対応					
	○幼稚園教員や保育士の資質向上							
	○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進							
	○幼稚園、保育園を活用した子育て支援の充実							
指標名	「子育てひろば」へ参加しての「活動を通しての満足度」の割合							
指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
事業に参加してのアンケート調査「非常に満足」と「満足」を合わせたの回答率	89.0%	99.1%	98.6%	100%				
	現状値 (平成23年度)		89%		➡		目標値 (平成29年度)	95%
平成26年度重点施策	<p>○就園前教育支援事業</p> <p>○(仮称)ふかやこども園の検討</p>							
平成26年度実績	<p>○質の高い幼児教育の推進</p> <p>・幼稚園教諭研修会(4月・5月・7月・8月・9月・10月・12月)を実施した。</p> <p>○幼稚園教諭や保育士の資質向上</p> <p>・保育園体験研修(8月)や合同研修会(12月)を実施した。</p> <p>○幼児教育と小・中学校教育との連携の推進</p> <p>・幼保小中連絡協議会(8月・3月)を実施した。</p> <p>○幼稚園、保育園を活用した子育て支援の充実</p> <p>・就園前幼児教育支援事業「子育てひろば」…全体会3回と幼稚園会場39回(10園×4回・悪天候のため1回中止)を開催した。</p> <p>○幼保一体化への対応</p> <p>・幼保一体化検討会議作業部会を8回開催し、モデル園の候補園を選定し、メリット、デメリット、課題、留意点等を検討し、幼保一体化検討会議に諮った。</p> <p>・幼保一体化検討会議を5回開催し、(仮称)ふかやこども園のモデル園と実施方法を決定した。</p>							
総合評価	A		<p>※総合評価の目安</p> <p>S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない</p>					
課題	<p>・幼稚園教育の質の向上と安定化を図る。</p> <p>・就園前幼児教育支援事業「子育てひろば」を幼稚園全園(12園)で開催する。</p> <p>・「子育てひろば」の活動内容の充実を図る。</p>							
評価コメント	<p>・「子育てひろば」は、未就園児を持つ保護者にとって、同年齢の子どもたちと安心して遊ばせたり、子育てに対する不安や悩みを話したり、横の繋がりを持つことができる場であるとともに、教育研究所の専門員や学校福祉相談員等により子育てのアドバイスや心理面よりサポートを受けられる機会となっている。また、幼稚園就園を考えている保護者にとっては、園の様子が分かり、園児や教師との関わりを持つことができ、就園に繋がっている。</p> <p>・「子育てひろば」に参加した方の満足度は高く、前年に引き続き参加する親子が増えてきている。</p> <p>・(仮称)ふかやこども園のモデル園選定や実施方法等についても予定通り進めることができ、幼保一体化に向けた取組の方向性をまとめることができた。</p> <p>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</p>							
意見・提言	<p>・成果指標である子育て広場の満足度は100%となっており、これはおおいに評価できる。</p> <p>・幼保一体化は、非常に難しい取組だが、モデル園を選定するなど、着実に進んでいる。</p>							

重点施策評価表

重点施策名	就園前教育支援事業	担当課	学校教育課
概要	公立幼稚園の機能を活用し、全園(12園)で「子育てひろば」を開催し、子育て支援の充実を図る。		
平成26年度の実績	<p>【内容】 深谷市在住の2歳から5歳までの未就園児親子を対象に地域の子育て支援の拠点となる公立幼稚園や公共施設(ピクチャートル・公民館など)を活用し、親子で遊んだり、親子の交流を深めながら、子育ての不安や悩み相談をすることで子育てへの自信を図る。また、園児とふれあったりしながら幼稚園の生活を体験し、未就園児 親子が安心して入園できるようにしている。</p> <p>【実績】 ・市内11園にて実施(明戸幼稚園は参加希望がなかったため実施しなかった。また、大寄・豊里幼稚園は、参加者が少なかったため合同開催となった。) ・全体会3回 幼稚園会場39回(10園×4回 悪天候のため1回中止) ・地域のボランティア(主任児童委員・保育ボランティア)の協力を得て、活動や援助がスムーズに行えた。</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	子育てひろば各幼稚園会場実施回数	39回 (11園)	市内全幼稚園での開催を計画し、各園ごとに工夫した活動を行うことができた。
	事業に満足した人の割合	100%	園で戸外遊びや園児との関わりがよかったという意見が多く、前年度に引き続き参加する親子も増えてきている。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	各幼稚園ごとに工夫を凝らした内容で参加保護者からも好評であった。地域のボランティア、各幼稚園共に、とても協力的に援助してくれ、引き続きお願いしていきたい。子育てひろばを通し、同年齢のお子さんを持つ保護者と交流し、横の繋がりがもてたり、子育ての講話を聞いたり、研究所職員やボランティアと関わったりし、子育ての不安や悩みを相談できる場となっている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	(仮称)ふかやこども園の検討	担当課	教育総務課
概要	幼保一体化施設である(仮称)ふかやこども園のモデル園を選定・実践するため、こども未来部、教育委員会を中心とした関連部署の職員で組織された幼保一体化検討会議及び作業部会を設置し、検討を行う。		
平成26年度の実績	<p>①保育課及び教育総務課を中心とした関係部署の職員をメンバーとする幼保一体化検討会議作業部会を計8回開催した。 ②こども未来部次長、教育部次長、関連部署の課長職をメンバーとする幼保一体化検討会議を計5回開催した。</p> <p>【検討結果の概要】 <モデル園> みらい幼児園おかべ及びおかべ幼稚園 <実施方法> ・目的は「幼稚園における保育サービスの向上」と「幼稚園と保育園の教育内容の一体化」とする。 ・現在の経営資源で実施できるよう、認定こども園という形態にはこだわらず、深谷市独自の指導方針を策定し、これに基づく就学前教育を行う(仮称)ふかやこども園とする。 <開始(モデル園としての実践)時期> 平成29年度</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	幼保一体化検討会議作業部会の開催回数	8回	モデル園の候補園を選定し、メリット、デメリット、課題、留意点等を検討し、幼保一体化検討会議に諮った。
	幼保一体化検討会議の開催回数	5回	作業部会からの提案を受け、検討を行い、幼保一体化に向けた取組の方向性をまとめた。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	3	今後はモデル園の実践に向けて準備を進めていくこととなるが、それと並行して、市全体としての将来的な幼稚園の在り方の検討も必要であると考え、よって評価を「拡充・重点化」とした。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

施策名	未来を切り拓くための確かな学力の育成		点検評価表 作成課	学校教育課				
施策の方向性	○学習指導要領の円滑な実施に努め、児童生徒に応用力や発展的な学力を含めた確かな学力を身に付けさせます。 ○児童生徒の学習状況を的確に把握し、学校の課題改善に向けた取組を支援します。 ○児童生徒一人一人に応じた、きめ細やかで質の高い指導を推進します。							
施策に関連する 主な取組	○「青淵学びの郷づくり」の推進		○きめ細やかで質の高い指導の充実					
	○「教育に関する3つの達成目標」の推進		○教育研究所の資源活用					
	○教科などの指導内容・指導方法の工夫・改善							
	○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進							
指標名	全国学力・学習状況調査							
指標の説明		平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
全国学力・学習状況 調査における県の平均 正答率を上回る項目数 (比較4項目:小6(国語 A・B、算数A・B)、中3 (国語A・B、数学A・B))	小6	未実施	未実施	1	2			
	中3	未実施	未実施	2	4			
		現状値 (平成25年度)		小6(1) 中3(2)		→	目標値 (平成29年度)	
							小6(4) 中3(4)	

平成26年度 重点施策	○こころざし深谷塾(国際塾・科学塾)の推進 ○小中一貫教育推進事業 ○学力向上推進事業
------------------------	---

平成26年度 実績	○「青淵学びの郷づくり」の推進 ・中学生補習学習運営事業の実施 全10中学校で実施し、参加者276名 ・延べ258名の大学生ボランティアが中学生の学習を支援した。 ・こころざし深谷国際塾の実施 参加児童生徒数 小学生11名、中学生 9名、合計20名 ・こころざし深谷科学塾の実施 参加児童生徒数 小学生25名、中学生15名、合計40名 ○学習状況の調査結果などの分析と活用の推進 ・深谷市チャレンジの実施 ・市内全学校実施 小学校: 19校 中学校: 10校 ・参加児童生徒数 小学校6年生:1,327名 中学校3年生:1,355名 ・実施時期 小学校 第1回 6月中旬 第2回 8月下旬 中学校 第1回 8月下旬 第2回 10月中旬 ○きめ細やかで質の高い指導の充実 ・少人数指導事業の実施 市内全19校にアシスタントティーチャー、教科支援エキスパートを各1名ずつ配置した。
----------------------	--

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

課題	平成26年度は、市内全ての小・中学校で深谷市チャレンジを実施した。今後は、内容の充実や実施方法(採点・データ処理)について検討する必要がある。
-----------	---

評価コメント	・平成26年度は、深谷市チャレンジを全小・中学校で実施し、学習意欲に関するアンケート結果では平成26年度は89.6%となっており、児童生徒の学習意欲は前年度に比べ2.3ポイント向上した。 ・アシスタントティーチャー及び教科支援エキスパートの配置により、担任が児童生徒と向き合う時間を確保し、一人一人に寄り添った教育を進めることができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。 (埼玉県は、従来の学力調査を廃止し、平成27年度より新たな調査を実施した。そのため、成果指標を「全国学力調査で県の平均正答率を超える項目数」に変更した。)
---------------	---

意見・提言	・小中一貫教育推進事業は、難しい部分もあるが素晴らしい事業なので、今後も続けてほしい。 ・児童生徒の学習意欲を高めるために、深谷市チャレンジは効果的である。児童生徒それぞれの学力に応じた問題に取り組む仕組みも良い。 ・こころざし深谷塾(国際塾・科学塾)は、希望者も多く、満足度も高く、内容の優れた事業である。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	ころざし深谷塾(国際塾・科学塾)の推進		担当課	学校教育課													
概要	【青淵学びの郷づくり】ころざし深谷塾を実施し、児童生徒の国際性や科学技術への関心・意欲を高める。																
平成26年度 の実績	<p>○ころざし深谷国際塾 国際社会に対する児童生徒の知的好奇心に応えるとともに、日本及び諸外国の伝統や文化等について深い理解をもち、国際社会において信頼され、世界の平和と発展に貢献できるリーダー育成を目的とする。</p> <p>参加者 小5～中2 小学生11名、中学生9名、合計20名参加 内容 第1日目:英会話体験、異文化理解講座(英語でクッキング)等 第2日目:JICA地球ひろば訪問(施設見学、講話等) 第3日目:英語による体験発表会、修了証授与 成果 参加者の意欲が高まり、国際協力・相互依存の必要性についての理解が深まった。</p>																
	<p>○ころざし深谷科学塾 科学的な体験学習を通して、子どもたちの科学技術に関する興味・関心を高め学力の向上を図る。本年度は、日本科学未来館と連携し、最先端科学を体験ブースや実験を通して、体験型の学習を行った。</p> <p>参加者 小5～中3 小学生25名、中学生15名、合計40名(希望者60名) 内容 第1日目<平成26年8月21日(木)> ・深谷市立教育庁舎にて電流と磁界(リニアモーターカー等)に関する講義、実験を行った。 第2日目<平成26年8月22日(金)> ・日本科学未来館を訪問し、①体験ブース、②超伝導の実験教室、③ロボット体験など、施設見学、講義、実験等を行った。 成果 参加者の科学技術等に対する興味関心は非常に高く、意欲的に説明を聞いたり、体験したりしていた。参加者の満足度は非常に高かった。(アンケートより)</p>																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加希望率(希望者/定員)</td> <td>114.3%(80/70)</td> <td>参加者には事前に課題を提示している。難しい課題にかかわらず、定員数を超える参加希望者がある。また、毎年参加するリピーターもいる。</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	指標名	実績値	指標別コメント	参加希望率(希望者/定員)	114.3%(80/70)	参加者には事前に課題を提示している。難しい課題にかかわらず、定員数を超える参加希望者がある。また、毎年参加するリピーターもいる。							<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価区分</th> <th>評価コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>毎年、実施内容を見直して、より有意義な活動になるように工夫改善している。今後も更に充実した活動を行い、渋沢栄一翁の志を受け継ぐ次代を担う人材育成に努めていく。</td> </tr> </tbody> </table>	評価区分	評価コメント	2
指標名	実績値	指標別コメント															
参加希望率(希望者/定員)	114.3%(80/70)	参加者には事前に課題を提示している。難しい課題にかかわらず、定員数を超える参加希望者がある。また、毎年参加するリピーターもいる。															
評価区分	評価コメント																
2	毎年、実施内容を見直して、より有意義な活動になるように工夫改善している。今後も更に充実した活動を行い、渋沢栄一翁の志を受け継ぐ次代を担う人材育成に努めていく。																
担当課 評価	<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>																

重点施策評価表

重点施策名	小中一貫教育推進事業		担当課	学校教育課
概要	9年間を見通したカリキュラムの作成及び授業実践を通して、指導方法の工夫・改善を図る。また、小学生と中学生の交流活動、小・中学校の教員の授業参観などを推し進める。			
平成26年度 の実績	<p><カリキュラム> ○各中学校区において、「小中一貫教育カリキュラム深谷モデル」をもとに、カリキュラムの研究を進める。 ・小中一貫教育実施計画書の作成・提出(各中学校区の小・中学校で協議し作成する) ○深谷市立教育研究所協力員の協力を得て、平成27年1月に小中一貫教育カリキュラム「つなぎ教材集」を作成し、各小・中学校に配布併せてホームページにUPした。</p> <p><児童生徒交流> ○各中学校区で、学区内の小学6年生を集めて部活動見学・体験をさせたり、吹奏楽部が小学校を訪問したりするなど、児童生徒交流を促進した。 ・岡部中学校…4つの小学校の6年生全員が中学校に集まり、中学生の授業を参観したり、一緒に掃除をしたりするなどの1日体験授業を行った。 ・深谷中・南中学校…小学校の親善運動会に向け、中学校の陸上部の顧問の教員が、4つの小学校の6年生を一堂に集めて、走り幅跳びやリレー等について指導する陸上教室を開催した。</p> <p><教員研修> ○小中一貫担当者会議を開催した。(7月、11月) ・小中一貫教育実施計画書をもとに各中学校区での小中一貫教育の取組を共有する。 ・「つなぎ教材集」の活用について ○はつらつ先生、長期研修教員、教育研究所指導委員の授業を広く市内教員に公開する「こころざし深谷教師塾」を実施した。 ・実施校 10校(年度途中10月末から学校訪問に合わせて実施) ・参加教員数 28名</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	児童生徒交流をを実施した中学校区	10校	市内全10中学校区で、児童生徒の交流活動を実施することができた。	
	小中一貫教育担当者会議の開催	2回	小中一貫教育実施計画書に基づいた年間計画についての話し合いや各中学校区の取組について共有することができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	川本中学校区3校で平成24年度・平成25年度に取り組んだ研究成果を、市内10中学校区に広めようと平成26年度からスタートした小中一貫教育推進事業であるが、学力の向上、不登校児童生徒数の減少など、着実な成果も見られた。引き続き、「小中一貫教育カリキュラム深谷モデル」や「つなぎ教材集」等を活用し、各中学校区において、カリキュラムの研究、児童生徒の交流、教員間の交流等を進めていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	学力向上推進事業	担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】深谷市チャレンジ(算数・数学、英語)を実施し、学習意欲の向上を図る。		
平成26年度 の実績	<p>○深谷市チャレンジ 深谷市チャレンジは、学力の重要な要素の1つである「学習意欲」の向上を目指し、目標をもって学習に取り組むことができる児童生徒の育成を図ることを目的として実施する。 ※平成26年度は、市内全小・中学校(小19校、中10校)で実施。 【対象学年・教科】 小学校第6学年…算数 中学校第3学年…数学、英語 【実施時期】 小学校 第1回 6月中旬 第2回 8月下旬 中学校 第1回 8月下旬 第2回 10月上旬 【成果】 第2回深谷市チャレンジ実施後の児童生徒アンケート結果より 学習に対する意欲が高まった(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合 小学校(算数) 91.2%, 中学校(数学) 87.0%, (英語) 89.8%</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	深谷市チャレンジ実施校	100% (29校/29校)	平成26年度は全小・中学校で実施
	深谷市チャレンジ実施後児童生徒アンケート	小:91.2% 中:88.4%	アンケート結果より、「学習に対する意欲が高まった」と回答した児童生徒の割合。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	平成27年度も、市内全小中学校で、深谷市チャレンジを実施する。 問題内容の充実、実施方法を検討し、児童生徒の学習意欲のさらなる向上に努める。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

施策名		郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進				点検評価表 作成課		学校教育課	
施策の方向性		<p>○伝統と文化を尊重し、日本人・深谷人としての誇りをもち、わが国と郷土深谷を愛する態度を養います。</p> <p>○国際理解教育を推進するとともに、小学校外国語活動においてコミュニケーション活動の更なる充実を図り、早期外国語教育を推進します。併せて、中学校への「なめらかな接続」を図り、中学校の英語教育を充実します。</p> <p>○帰国・外国人児童生徒等への日本語指導など、学校や社会生活への適応を図るために必要な支援を行います。</p>							
施策に関連する主な取組		○伝統と文化を尊重する教育の推進							
		○国際性を育む教育の推進							
		○小学校段階からの外国語活動の推進							
		○帰国・外国人児童生徒等への教育の充実							
指標名		生徒の英語学習に対する積極的な態度							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	授業で積極的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとしているかという質問に対する回答率	76.0%	82.2%	84.7%	86.4%				
		現状値 (平成23年度)		中学生 76%		➡		目標値 (平成29年度)	
平成26年度重点施策		<p>○国際化教育推進事業</p> <p>○文科省指定「教育研究開発(英語教育関係)」の推進</p>							
平成26年度実績		<p>○国際性を育む教育の推進</p> <p>・市内各小・中学校に外国語指導助手(ALT)16名を配置し、小学校3年生～中学校3年生が、週に1回、ALTとの授業を受けた。</p> <p>・夏休み子ども英会話体験教室を実施し、小学校3～6年生が、4日間で、延べ227名参加した。</p> <p>○小学校段階からの外国語活動の推進</p> <p>・文部科学省から教育課程の特例を受け、小学校3年生から週1回外国語活動を実施した。</p> <p>・市内全小・中学校が文部科学省の指定を受け、教育研究開発を行った。意識調査において、「英語の学習が楽しい」と答えた小学生が90%を超え、「授業中積極的に英語を使っている」生徒が80%を超えるなどの成果が明らかになった。</p> <p>・深谷市英語教育小中一貫モデルプランを策定し、英語教育の充実を図った。</p> <p>○帰国・外国人児童生徒等への教育の充実</p> <p>・日本語指導を必要とする外国籍児童のために、市費日本語指導員(6名)を、小学校9校、中学校3校に配置した。</p>							
総合評価		A		<p>※総合評価の目安</p> <p>S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる</p> <p>B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない</p>					
課題		文部科学省が提唱するグローバル化に対応した英語教育改革実施計画に基づき、2020年を見据え、英語教育において多くの変革が求められている。小学校5・6年生での教科化や中学校での授業を英語で行うことを基本とする等、取り組まなければならない課題が山積している。							
評価コメント		<p>・深谷市は、文部科学省の教育研究開発の指定を受け、様々な取組を行った結果、伝統と文化を尊重する教育の推進、国際性を育む教育の推進、小学校段階からの外国語活動の推進、帰国・外国人児童生徒等への教育の充実を十分図ることができた。</p> <p>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</p>							
意見・提言		<p>・全体的に色々な数値が少しずつ向上しており、評価できる。</p> <p>・外国語指導助手の年間授業時間数が昨年度に比べて減少しているので、積極的な活用を期待したい。</p>							

重点施策評価表

重点施策名	国際化教育推進事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】全小・中学校に外国語指導助手(ALT)を配置し英語教育等の充実を図る。			
平成26年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語指導助手の配置 【採用人数】16名 【雇用形態】労働派遣契約 【雇用期間】第1期(平成26年4月～6月) 第2期(平成26年10月～平成27年3月) 【実施状況】 ○市内全公立小・中学校に、学校規模に応じて、週当たり1～5日ALTを配置した。 ○小学校3～6年生は、週に一度の外国語活動の時間に、担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、ALTを配置した。中学校では、全ての生徒が週に一度以上は教科担任とALTによるチーム・ティーチングを受けられるように、配置した。 ○本物の英語に触れることで、子どもたちの国際性が高まり、英語によるコミュニケーションを図ろうとする意欲が伸びている。 ○国も、義務教育段階の英語教育の推進を図っている。 			
		指標名	実績値	指標別コメント
		ALTの年間授業時間の目標値を達成した割合	78.3%	目標値の授業時間は、1日当たり61.2時間(16名分)とする。平成26年度は170日の期間で、8144時間の授業を行った。
		外国語(英語)の学習を楽しんでいる児童の割合(小3～小6)	94.4%	学年によって割合は違うが、小学校6年生でも90%を超えている。全国的なデータと比較すると、深谷市では英語好きの子どもが非常に多い。
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	ALTによる授業を必要とする学級数(279学級、29校)から、最も効率よく運営するための最少人数(16名)を算出し、全ての学校に配置することができた。また、英語好きな児童生徒が非常に多いことから、ALTの存在と彼らを活用する学級担任の指導技術がうまくかみ合っていると見える。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	文科省指定「教育研究開発(英語教育関係)」の推進		担当課	学校教育課										
概要	【青洲学びの郷づくり】 小学校3年からの早期外国語教育を推進し、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を図り、国際性を育む。													
平成26年度の実績	<p>○教育課程の特例 文科省から研究開発の指定(全国で2例:深谷市・岐阜県多治見市)を受け、教育課程の特例を設けている。このため、他の自治体と違い、深谷市では小学校3年生から週1回、外国語活動を行っている。</p> <p>○深谷市英語教育一貫教育プランの作成 市内全小・中学校の標準的な指導モデルを作成し、各学校の特色を生かしながら外国語(英語)の授業を行っている。深谷市の強みは、市内の全小・中学校が研究指定を受けていることである。(単一の学校が研究指定を受けても、成果が広がりにくいというケースが多い)</p> <p>○指導法研究会の開催 ・小学校外国語活動指導法集中研究会の実施(平成22年度からの継続事業) 市内全小学校教員を対象として、指導法の研究会を実施している。このことにより、英語に対する苦手意識を克服し、指導技術の向上を図ることができた。参加者の満足度は、ほぼ100%に達している。</p> <p>・中学校英語教育指導法研究会の実施 大学教授等を招いて、最新の英語教育に関する講義を実施している。併せて、英語指導に係るワークショップを行い、市内英語科教員、約35名の指導技術の向上に努めている。</p> <p>・中学校区別授業研究会の実施 市内を10ブロックに分けて、授業研究会を実施した。小・中学校教員が、校種を越えて授業を参観し、研究協議を行う中で、教員の立場からの小中連携を深めることができた。</p> <p>○深谷市チャレンジの実施 市内10校の中学校3年生を対象に実施した。英語に対する関心・意欲を高めることを目的としている。</p> <p>○こころざし深谷国際塾の実施 渋沢栄一翁の心を受け継ぎ、次代を担う人材育成を目的とする。対象は小学校5年生から中学校2年生までの希望者。平成26年度は、小学生11名、中学生9名、合計20名が参加した。JICA(国際協力機構)と連携して実施している深谷市独自の取組である。</p> <p>○夏休み子ども英会話体験教室の実施 伸びる意欲のある子どもをさらに伸ばすことを目的としている。対象は小学校3～6年生の希望者。夏季休業期間中に4日間実施し、平成26年度は、延べ227名が参加した。</p>													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学級ごとのALT配置回数の割合</td> <td>86% (30/35時間)</td> <td>配置していない5時間分は、労働派遣のクーリング期間のため。</td> </tr> <tr> <td>積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(小6)の割合</td> <td>87.0%</td> <td>全国的には英語嫌いが増えてくる時期であるが、深谷市では9割近い児童が積極的に英語の授業に取り組んでいる。</td> </tr> <tr> <td>積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒(中1)の割合</td> <td>89.7%</td> <td>小学校6年次よりも若干数値が上がっている。研究開発の取組により、小・中学校の接続がうまくいっていると言える。</td> </tr> </tbody> </table>	指標名	実績値	指標別コメント	学級ごとのALT配置回数の割合	86% (30/35時間)	配置していない5時間分は、労働派遣のクーリング期間のため。	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(小6)の割合	87.0%	全国的には英語嫌いが増えてくる時期であるが、深谷市では9割近い児童が積極的に英語の授業に取り組んでいる。	積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒(中1)の割合	89.7%	小学校6年次よりも若干数値が上がっている。研究開発の取組により、小・中学校の接続がうまくいっていると言える。	
指標名	実績値	指標別コメント												
学級ごとのALT配置回数の割合	86% (30/35時間)	配置していない5時間分は、労働派遣のクーリング期間のため。												
積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする児童(小6)の割合	87.0%	全国的には英語嫌いが増えてくる時期であるが、深谷市では9割近い児童が積極的に英語の授業に取り組んでいる。												
積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする生徒(中1)の割合	89.7%	小学校6年次よりも若干数値が上がっている。研究開発の取組により、小・中学校の接続がうまくいっていると言える。												
担当課評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価区分</th> <th>評価コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>市内全小・中学校が研究指定を受けることによって、成果を全ての学校が共有することができている。このことから、全ての学校の指導力の向上を図ることができている。その結果として、中学校段階で学力向上の兆しが見え始めている。研究指定は終了するが、小学校外国語活動の教科化をにらみ、取組を充実させていきたい。</td> </tr> </tbody> </table>	評価区分	評価コメント	2	市内全小・中学校が研究指定を受けることによって、成果を全ての学校が共有することができている。このことから、全ての学校の指導力の向上を図ることができている。その結果として、中学校段階で学力向上の兆しが見え始めている。研究指定は終了するが、小学校外国語活動の教科化をにらみ、取組を充実させていきたい。									
評価区分	評価コメント													
2	市内全小・中学校が研究指定を受けることによって、成果を全ての学校が共有することができている。このことから、全ての学校の指導力の向上を図ることができている。その結果として、中学校段階で学力向上の兆しが見え始めている。研究指定は終了するが、小学校外国語活動の教科化をにらみ、取組を充実させていきたい。													
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>														



基本目標Ⅰ 社会を生き抜く力の育成

I-4

施策名	夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	点検評価表 作成課	学校教育課					
施策の方向性	○子どもたちの科学技術に関する興味・関心を高め、豊かな科学的素養や思考力を育成します。 ○児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力を育成するとともに、情報モラルについての理解を深めます。 ○将来にわたって豊かな暮らしを実現する持続可能な社会の構築を目指した環境教育を推進します。							
施策に関連する 主な取組	○科学技術教育の推進 ○情報教育の推進 ○環境教育の推進 ○社会的課題に対応する教育の充実							
指標名	授業中にICTを活用して指導することができる教員の割合							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	国の行うICT調査における教員の指導力についての状況	87.7%	91.3%	89.5%	89.2%			
		現状値 (平成22年度)	84%		➡	目標値 (平成29年度)	100%	

平成26年度 重点施策	○小・中学校ICT整備事業		
平成26年度 実績	○科学技術教育の推進 ・市内全小・中学校において、小学校6年生及び中学校3年生に対して、風力・太陽光発電に関する啓発授業を実施することができた。 ○情報教育の推進 ・小学校12校の校務用コンピュータの入替を行い、ICTを活用して教材準備等ができる環境を充実させた。 ・小学校9校のコンピュータ室の機器の入替を行い、ハイブリッド型PCを導入し、様々な場面でパソコンを活用して授業を行える環境を充実させることができた。 ・中学校5校の普通教室のプロジェクタの入替を行い、各教科で教科書や様々な教材を拡大して提示できる環境を充実させることができた。 ・ICTを活用した授業が小・中学校とも、およそ2時間に1回行われた。 ○社会的課題に対応する教育の充実 ・校務支援システムを更新し、全ての小・中学校において指導要録と出席簿の電子化を実施するとともに、抄本や調査書についても電子化した。その結果、教職員1人あたり年間平均65.4時間の負担軽減となり、子どもと向き合う時間の確保につながった。 ・小・中学校の教職員を対象に、情報モラルに関する研修、21世紀型スキルの育成についての研修を行った。		
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない	
課題	文部科学省の教育の情報化ビジョン(H23.4)に示された21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末、校務支援システム等)の実現に向け、今後も機器の入替に伴う整備を継続していく必要がある。		
評価コメント	・コンピュータ教室、普通教室、職員室のICT機器の整備は、ほぼ計画通りに進んでいる。 ・臨時的任用教員が多くなっていることで指標はやや下がっているが、研修を充実させることにより、教職員が授業でICTを活用する場面は増えており、小中学校ともに、およそ2時間に1回の割合でICTを活用した授業が行われている。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。		

意見・提言	・ICTを活用して指導できる教員の割合は89.2%と非常に高くなっており、情報教育環境の整備を進めた成果と言える。 ・各小・中学校ではホームページを日々頻繁に更新し、多数の閲覧があった。ホームページは学校と保護者と地域を繋ぐツールとして、今後ますます重要になると考えられるため、とても意義あることである。 ・校務支援システムにより、先生が子どもと向き合う時間を増やせたことは素晴らしい。今後はこれを更に進めてほしい。 ・教職員の負担軽減のため、学校に求める報告書や調査については、重複を避けるなど合理化を図ってほしい。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	小・中学校ICT整備事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】 ICT環境の充実を図り、児童生徒の情報活用能力の向上を図るとともに、教師が教科指導等においてICTを活用することにより、学習活動を充実させる。さらに、教職員用コンピュータに校務支援システムを導入し、教員の負担軽減による子どもと向き合う時間を確保する。			
平成26年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校12校の校務用コンピュータ及び職員室のネットワーク機器の入替を行った。 ・小学校9校のコンピュータ室の機器の入替を行い、タブレットPCにもなるハイブリッド型PCを導入した。 ・校務支援システムを更新し、全ての小・中学校において指導要録や調査書等を電子化した。 ・中学校5校の教室用プロジェクタの入替を行った。 ・各小・中学校ホームページを平均1日2回以上の頻度で更新し、アクセス数が平均1日600件を超えた。 ・各小・中学校のホームページに「緊急連絡サイト」を活用し、大雨等の緊急時に活用した。 ・ICTを活用した授業が小中学校とも、およそ2時間に1回行われた。 ・校務支援システムにより、教職員1人あたり年間で65.4時間の負担軽減となると回答しており、子どもと向き合う時間の確保につながった。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	PC1台あたりの児童生徒数	4.9人/台	PC整備率は、県内40市の中でトップクラスの整備率となっている。県は9.4人/1台である。	
	授業中にICTを活用して指導できる教員の割合	89.2%	普通教室のICT環境を整備後、研修等を実施し、高い水準を維持している。県は69.5%である。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	ハイブリッド型PCなどの導入により、PCの活用幅が広がった。文科省の教育の情報化ビジョン(H23.4)に示された21世紀にふさわしい学校教育環境(1人1台のタブレット型端末)の実現に向け、今後も機器の入れ替えに伴う整備を継続していくとともに新しい機器にあわせ無線LAN環境の整備をしていく必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		高い志をもつキャリア教育の推進				点検評価表 作成課		学校教育課	
施策の方向性		○小学校の段階から教育活動全体を通じ、組織的・系統的なキャリア教育を推進します。 ○将来働くことについて意欲や関心を持てるように、学校・地域・企業などが一体となって、実際の職場での体験活動を推進します。							
施策に関連する 主な取組		○発達段階に応じたキャリア教育の充実							
		○小・中・高における「なめらかな接続」の推進							
		○職場体験活動の充実							
指標名		「将来の夢や目標をもっている」生徒の割合							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	「将来の夢や目標をもっている」という設問に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合を併せた回答率	未実施	未実施	76.6%	79.5%				
		現状値 (平成25年度)		中学生 76.6%		➡		目標値 (平成29年度)	

平成26年度 重点施策	○小・中学校のキャリア教育の充実 ○園・校種間のなめらかな接続
------------------------	------------------------------------

平成26年度 実績	○発達段階に応じたキャリア教育の推進 ・小学校低学年での「がっこうたんけん」、中学年での「まちたんけん」、高学年での「社会科見学」を通して、視野を広げる活動を全校で実施した。 ・全小学校で1/2成人式を4年生で実施し、中学2年生での立志式へとつなげた。 ・産業祭への参加(深谷小学校6年生が地域での勤労、交流、体験を通しての発表を行った) ・中学校1年生での「職業調べ」、2年生での「立志式」、3年生での「高校説明会への参加」といった活動を全校で実施した。 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進 ・各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。 ・中高連絡協議会の実施(深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。) ○職場体験活動の充実 ・中学生社会体験チャレンジの実施(全中学校が、2年生において実施した。事前事後の活動を含め5日間実施、事業所等の代表からなる推進委員会を2回実施した。)
----------------------	--

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

課題	・小学校段階、中学校段階、それぞれキャリア教育の取組が行われているが、それを系統的に整備する必要がある。26年度は1/2成人式から立志式への系統だった取組の足がかりができた年であった。今後更なる工夫が必要である。 ・社会体験チャレンジにおいては、事業所の確保が課題となっている。
-----------	--

評価コメント	・小学4年で1/2成人式、中学2年生で立志式を市内全校で実施した。 ・中学生社会体験チャレンジ事業(職場体験学習)では、推進委員会での情報交換や地元の商工会等の協力によって、より多くの生徒の希望にあった職場体験が実施できた。受け入れ事業所も、平成26年度は378箇所となり、前年度から22箇所増加している。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。 (埼玉県は、従来の学力調査を廃止し、平成27年度より新たな調査を実施した。そのため、成果指標を「全国学力調査で「将来の夢や目標をもっている」という設問に対し、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒の割合を併せた回答率」に変更した。)
---------------	--

意見・提言	・社会体験チャレンジの協力事業所が、22箇所増えており、評価できる。引き続き、生徒の希望に応えられるように協力事業所の開拓を続けてほしい。
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	小・中学校のキャリア教育の充実		担当課	学校教育課												
概要	【青淵学びの郷づくり】小学生の職業に触れる体験や中学生の職場体験などを実施し、望ましい職業観・勤労観を育成する。															
平成26年度の実績	<p>〈発達段階に応じたキャリア教育の推進〉</p> <p>①小学校低学年での「がっこうたんけん」、中学年での「まちたんけん」、高学年での「社会科見学」を通して、視野を広げる活動を全校で実施した。</p> <p>②4年生で1/2成人式を全校で実施し、中学2年生での立志式へとつなげた。</p> <p>③産業祭への参加(深谷小学校6年生が地域での勤労、交流、体験を通しての発表を行った)</p> <p>④中学校1年生での「職業調べ」、2年生での「立志式」、3年生での「高校説明会への参加」といった活動を全校で実施した。</p> <p>〈小・中・高における「なめらかな接続」の推進〉</p> <p>①各教科等において、小中一貫カリキュラムの作成を進め、中1ギャップ等の解消に取り組んだ。</p> <p>②中高連絡協議会の実施(深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催し、進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。)</p> <p>〈職場体験活動の充実〉</p> <p>①学生社会体験チャレンジの実施(全中学校が、2年生において実施した。事前事後の活動を含め5日間実施、事業所等の代表からなる推進委員会を2回実施した。)</p> <table border="1" data-bbox="311 869 1428 1120"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会体験チャレンジの参加人数</td> <td>1,332人</td> <td>市内中学2年生全員を対象として実施。</td> </tr> <tr> <td>社会体験チャレンジの参加割合</td> <td>100%</td> <td>全生徒参加</td> </tr> <tr> <td>社会体験チャレンジの生徒1人当たりのコスト</td> <td>3,044円</td> <td>全中学校で実施したため、効率性を保つことができた。</td> </tr> </tbody> </table>				指標名	実績値	指標別コメント	社会体験チャレンジの参加人数	1,332人	市内中学2年生全員を対象として実施。	社会体験チャレンジの参加割合	100%	全生徒参加	社会体験チャレンジの生徒1人当たりのコスト	3,044円	全中学校で実施したため、効率性を保つことができた。
指標名	実績値	指標別コメント														
社会体験チャレンジの参加人数	1,332人	市内中学2年生全員を対象として実施。														
社会体験チャレンジの参加割合	100%	全生徒参加														
社会体験チャレンジの生徒1人当たりのコスト	3,044円	全中学校で実施したため、効率性を保つことができた。														
担当課評価	評価区分 1	評価コメント 望ましい職業観・勤労観を育成するために、発達段階に応じた取組がなされた。中学生で行う社会体験チャレンジは、推進委員会の実施により、深谷商工会議所・ふかや市商工会等の協力が得られるなど、一定の成果が上がっている。														
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)																

重点施策評価表

重点施策名	園・校種間のなめらかな接続		担当課	学校教育課												
概要	<p>全中学校区で小中一貫教育を推進し、中1ギャップの解消を図るとともに、中高連絡協議会を実施し、中高の連携を図る。また、市内幼稚園、保育園及び小・中学校関係者による研究協議を行い、幼保小中のなめらかな接続と教育の充実・発展を図る。</p>															
平成26年度の実績	<p><小・中・高における「なめらかな接続」の推進> ○各中学校区において、9年間の学びと育ちの連続性を重視した小中一貫教育の実施（小中一貫教育推進事業の実施【再掲】） ・カリキュラムの研究 ・児童生徒の交流 ・教員間の交流 ・小中連携シートの活用 等 ○「中高連絡協議会」の開催（4回） ・深谷市内・寄居町内高等学校との協議会を2回、熊谷市内高等学校との協議会を2回開催した。（対象：各中学校長、各高等学校長を基本とする） ・進路指導・キャリア教育の視点に立った協議を行った。 ○小学校教科支援エキスパート（全小学校）、小学校理科支援員（全小学校）の配置 ・小学校における授業の一部で専科指導を実施することにより、小学校（学級担任制）から中学校（教科担任制）への「なめらかな接続」を図った。</p> <p><幼・保・小・中における「なめらかな接続」の推進> ○幼・保・小・中連携推進協議会の開催（2回） 中学校区10ブロックに分かれ分科会を行い、幼・保・小・中連携について協議した。 （対象：各幼稚園・保育園の園長又は主任、各小・中学校の管理職等） ・8月 … 講演：立教大学 大石幸二教授 「一貫連携教育と就学支援について」 ・3月 … 講義：埼玉県教育局特別教育支援課指導主事 神田指導主事 「平成26年度共生社会を支える特別支援教育推進事業について」</p> <table border="1" data-bbox="323 1037 1423 1458"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中学校不登校生徒の出現率</td> <td>1.20%</td> <td>平成26年度の不登校生徒数は51名であり、平成25年度の出現率1.6%を下回った。</td> </tr> <tr> <td>中高連絡協議会の開催回数</td> <td>2回</td> <td>なめらかな接続のため、深谷市内・寄居町内高等学校と熊谷市内高等学校との協議会をそれぞれ2回ずつ開催した。（1回目…6・7月、2回目…10・11月）</td> </tr> <tr> <td>幼・保・小・中連携協議会の開催回数</td> <td>2回</td> <td>なめらかな接続のため、年度の前半（夏季休業中）と後半（年度末）に協議会を実施した。</td> </tr> </tbody> </table>				指標名	実績値	指標別コメント	中学校不登校生徒の出現率	1.20%	平成26年度の不登校生徒数は51名であり、平成25年度の出現率1.6%を下回った。	中高連絡協議会の開催回数	2回	なめらかな接続のため、深谷市内・寄居町内高等学校と熊谷市内高等学校との協議会をそれぞれ2回ずつ開催した。（1回目…6・7月、2回目…10・11月）	幼・保・小・中連携協議会の開催回数	2回	なめらかな接続のため、年度の前半（夏季休業中）と後半（年度末）に協議会を実施した。
指標名	実績値	指標別コメント														
中学校不登校生徒の出現率	1.20%	平成26年度の不登校生徒数は51名であり、平成25年度の出現率1.6%を下回った。														
中高連絡協議会の開催回数	2回	なめらかな接続のため、深谷市内・寄居町内高等学校と熊谷市内高等学校との協議会をそれぞれ2回ずつ開催した。（1回目…6・7月、2回目…10・11月）														
幼・保・小・中連携協議会の開催回数	2回	なめらかな接続のため、年度の前半（夏季休業中）と後半（年度末）に協議会を実施した。														
担当課評価	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	評価区分	1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保・幼・小・中・高のなめらかな接続の推進により、不登校児童生徒の削減など、中1ギャップの解消が図られた。また、中高連絡協議会の開催により、市内中学校出身の生徒に関する情報交換や本年度の入試状況等について、更に保・幼・小・中連携協議会の開催により、地域で育つ子供の保育と教育について共通理解を図ることができた。</td> </tr> </tbody> </table>			評価コメント	保・幼・小・中・高のなめらかな接続の推進により、不登校児童生徒の削減など、中1ギャップの解消が図られた。また、中高連絡協議会の開催により、市内中学校出身の生徒に関する情報交換や本年度の入試状況等について、更に保・幼・小・中連携協議会の開催により、地域で育つ子供の保育と教育について共通理解を図ることができた。								
評価区分																
1																
評価コメント																
保・幼・小・中・高のなめらかな接続の推進により、不登校児童生徒の削減など、中1ギャップの解消が図られた。また、中高連絡協議会の開催により、市内中学校出身の生徒に関する情報交換や本年度の入試状況等について、更に保・幼・小・中連携協議会の開催により、地域で育つ子供の保育と教育について共通理解を図ることができた。																
<p>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</p>																



施策名		児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進				点検評価表作成課		学校教育課	
施策の方向性		○各学校において、個別の教育的支援が必要な児童生徒に対する支援体制を整えます。 ○特別支援学級や通級指導教室について、ニーズを把握しながら、新設、増設等の準備を進めます。							
施策に関連する主な取組		○特別支援教育体制の整備・充実				○他機関との連携			
		○就学支援・相談の充実				○支援籍学習の推進			
		○特別支援教育の視点に立った指導の充実				○教育研究所の機能の充実			
		○特別支援補助員の活用							
指標名		通常の学級に在籍する障害のある児童生徒の個別の教育指導計画作成率							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	「特別支援教育の推進」について効果を検証するため、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対する個別の教育指導計画の作成率	52.1%	57.7%	64.8%	80.0%				
		現状値 (平成23年度)		52%	➡		目標値 (平成29年度)		100%
平成26年度重点施策		○児童生徒一人一人の教育的ニーズ合わせた支援の充実 ○ふっかちゃんi(愛)サポート事業 ○支援籍学習推進事業							
平成26年度実績		○特別支援教育体制の整備・充実 ・ふっかちゃんi(愛)サポート事業により、iPadを中学校特別支援学級19学級に2台ずつ合計38台整備した。 ・特別支援教育用机(2台)を常盤小学校に配備し、拡大読書器、書見台等を八基小学校に配備した。 ○就学支援・相談の充実 ・就学支援委員会 4回 小委員会2回 ・巡回相談 69回(幼稚園 12回 小学校 37回 中学校20回) ・学級学校支援相談 33回 ○特別支援教育の視点に立った指導の充実 ・特別支援教育コーディネーター合同研修会(通常の学級担任研修会含む) 3回 ・巡回相談員研修会 1回 ・特別支援教育担当者研修会 1回 ・特別支援教育担当者経験3年以下研修会 2回 ○特別支援補助員の活用…特別支援補助員研修会 1回 ○他機関との連携…91回 ○支援籍学習の推進…通常学級支援籍学習 49名、特別支援学級支援籍学習 8名 ○教育研究所の機能の充実…WISC(知能)検査実施件数 147件							
総合評価		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない					
課題		・通常の学級担任及び担当者の特別な教育的支援の必要な児童生徒への指導力の向上がさらに必要である。 ・障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた教育的支援を継続的に行うために、移行支援をさらに充実させていくことが必要である。							
評価コメント		・子どもの教育的ニーズに合わせた多様な学びの場(支援籍学習や特別支援学級の弾力的な運用、通級指導教室など)を活用することにより、子ども一人一人の教育的ニーズに合った教育的支援に取り組む体制が整ってきている。 ・成果指標である通常に学級に在籍する障害のある児童生徒に対する個別の教育指導計画の作成率が80%となり、前年度から15.2ポイント向上した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							
意見・提言		・成果指標である通常学級に在籍する障害のある児童生徒の個別指導計画の作成は、時間もかかり大変だが、その数値が64.8%から一気に80%に向上し、素晴らしい。また、計画を作成することにより教職員の指導力の向上も期待できる。 ・ふっかちゃんi(愛)サポート事業で、iPadを特別支援学級に導入したことは、素晴らしい取組である。今後も継続し、工夫しながら様々な成果を出してほしい。 ・深谷市の特別支援教育への取組は、他市に比べても熱心で、その内容も充実している。							

重点施策評価表

重点施策名	児童生徒一人一人の教育的ニーズ合わせた支援の充実	担当課	学校教育課
概要	児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた個別の教育支援計画や教材教具等の整備の充実を目指します。		
平成26年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級及び通常の学級に在籍する児童生徒で特別の教育的支援を必要とする児童生徒の教育支援計画等の作成 ・巡回相談の実施 ・特別な教育的支援の必要な児童生徒に対し、各小中学校における特別支援学級への弾力的な運用の活用。 ・教職員研修の実施 特別支援教育コーディネーター等合同研修会 3回 特別支援教育担当者研修会・・・経験3年以下研修会 2回、担当者研修会 1回 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	通常の学級で障害のある児童生徒の個別の教育支援計画作成率	80%	通常の学級に在籍している障害を持った児童生徒の一人一人の教育的ニーズに合わせた教育支援計画を作成する。
	巡回相談実施回数(幼・小・中の合計)	69回	幼児・児童・生徒一人一人のニーズを把握し、支援の目標と方法について検討し、園・校内での支援体制を整備する。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	巡回相談や教職員研修を行い、発達障害等の理解及び支援方法を習得し、指導力の向上に生かし、児童生徒の一人一人の教育的ニーズに合わせた支援の充実が図られている。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	ふっかちゃんi(愛)サポート事業	担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】「ふっかちゃん子ども福祉基金」を財源とし、特別支援教育の支援体制の整備の充実を図る。主にiPad等の機器を整備し、障害の状態や発達の段階等に応じて活用することにより、学習や生活上の困難をサポートし、学習指導の効果を高めることを目的とする。		
平成26年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校10校のすべての特別支援学級にiPadを2台ずつ、合計38台整備し、授業での活用を行った。 ・普段の授業でiPadを活用できるよう中学校の特別支援学級担任を対象としたiPad導入研修を行った。 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	学習効果についての満足度	100%	すべての特別支援学級の教員が「効果あり」と回答している。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	iPadを活用した学習活動により、興味・関心が高まったり、学習内容の理解が深まったりと児童生徒に変容が見られたと全ての担当教員が回答した。また、保護者にも概ね好評である。今後は、今年度の成果をふまえ、活用方法の研究や特別支援学級担任への研修の充実などを進めていく必要がある。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策評価表

重点施策名	支援籍学習推進事業		担当課	学校教育課
概要	インクルーシブ教育を推進し、こどもの教育的ニーズに合わせた教育支援をおこなうため、多様な学びの場として、特別支援学校や通常の学級での支援籍学習を推進します。			
平成26年度 の実績	<p>○特別支援学校支援籍： ・小・中学校の児童生徒が特別支援学校支援籍を取得し、特別支援学校の学級に入り、学習を行った。</p> <p>○通常学級支援籍： ・特別支援学校の児童生徒が通常学級支援籍を取得し、通常の学級に入り、学習を行った。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	特別支援学校支援籍者数	8名	深谷はばたき特別支援学校、本庄特別支援学校、熊谷特別支援学校での支援籍を取得した児童生徒数	
	通常学級支援籍者数	49名	熊谷特別支援学校、深谷はばたき特別支援学校、本庄特別支援学校等の特別支援学校児童生徒の支援籍取得者数	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	多様な学びの場を提供することにより、一人一人の教育的ニーズに合わせた教育的支援を行うことができた。		
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）				



基本目標Ⅱ たくましく生きるための心と体の育成

Ⅱ-1

施策名	まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進		点検評価表 作成課	学校教育課					
施策の方向性	○「青淵学びの郷づくり」を推進します。 ○地域の特色を生かし、学校の教育活動全体を通じた道徳教育を推進します。 ○子どもたちの豊かな人間性や社会性を育むため、地域の特色を生かした体験活動の充実を推進します。 ○学校における子どもたちの豊かな読書活動を推進します。 ○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)を推進します。								
施策に関連する 主な取組	○「青淵学びの郷づくり」の推進		○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)の推進(再掲)						
	○道徳教育の推進								
	○体験活動の推進								
	○読書活動の推進								
指標名	「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般応募作品数の増加								
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内の在勤・在住者対象の、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般の部への応募作品数 ※()は高校生・大学生を除く一般数	589作品 (一)	1,349作品 (130)	1,342作品 (149)	1,264作品 (114)				
		現状値 (平成23年度)	589作品		→	目標値 (平成29年度)	1,000作品		

平成26年度 重点施策	○「渋沢栄一こころざし読本」「青淵・こころざし歳時記」の活用 ○まごころ先生派遣事業 ○まごころ訪問の実施 ○子ども読書活動の推進
------------------------	--

平成26年度 実績	○「青淵・学びの郷づくり」の推進 ・「青淵・学びの郷づくり」心の教育推進協議会を実施した。(2月4日) ・「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」手紙文の募集(応募総数12,873点)と表彰、作品集(第7集)の作成、配布 ○道徳教育の推進 ・「渋沢栄一こころざし読本」を、すべての小・中学校で活用した。 ・市内全小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。(小学校20回、中学校21回) ・「青淵・こころざし歳時記」を市内小学校1年生及び4年生児童、中学校1年生生徒に配布し、朝の読書活動など教育活動で活用した。 ・「青淵・こころざし歳時記」は、図書館、公民館等公共施設に設置するとともに、HPに掲載した。 ○まごころ訪問の実施 ・市内全小学校でまごころ訪問を実施した。 ○読書活動の推進 ・市内全小・中学校に司書教諭を発令し、学校図書館補助員を配置した。 ・ふかや必読書30を「広報ふかや」で紹介した。 ・1人当たりの年間貸出し冊数 小学校46.6冊、中学校5.4冊。 ○「教育に関する3つの達成目標」(規律ある態度)の推進(再掲) ・小・中学校合わせて108項目中、107項目が達成率80%を上回った。
----------------------	--

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

課題	・子どもたちの心の教育を充実させるために、引き続き、「渋沢栄一こころざし読本」及び「まごころ先生」の積極的な活用とともに、道徳の時間の指導力の向上を図ることが必要である。
-----------	---

評価コメント	・「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、「渋沢栄一こころざし読本」及び「まごころ先生」の積極的な活用のほか、「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」手紙作文の募集、「まごころ訪問」などを積極的に行い、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図れた。 ・成果指標については、目標値の1,000作品を超えることができた。今後は高校生や大学生を除く一般作品の数を増やしたい。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	---

意見・提言	・成果指標である「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」一般の部への応募作品数は、3年連続で1,000作品を超えており、地域に定着してきている。このまま続けてほしい。 ・まごころ訪問は、地域のお年寄りにはインパクトのある取組で、とても喜んでいただいていた。学校と地域をつなぐ取組であり、今後も続くことを期待したい。 ・渋沢栄一こころざし読本の取組は、素晴らしい。継続してほしい。
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	「渋沢栄一こころざし読本」「青淵・こころざし歳時記」の活用		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】栄一翁をはじめとした郷土の偉人の生き方等に触れ、立志・忠恕・礼節を大切にす言葉にふれ、子どもの心の芯を鍛える。			
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「渋沢栄一こころざし読本」を、すべての小・中学校で活用した。(活用状況小・中学校100%) ・深谷市道徳教育研修会を8月6日に実施し、「渋沢栄一こころざし読本」の効果的な活用を図った。(小学校22名、中学校12名参加) 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	渋沢栄一こころざし読本の活用率	小学校100% 中学校100%	道徳年間指導計画に位置付け、市内全ての小・中学校で着実に実施した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、全小・中学校で「渋沢栄一こころざし読本」を活用することで、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができる。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				


重点施策名	まごころ先生派遣事業		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】深谷市の特色を生かして、豊かな心を育むために、地域人材を活用したまごころ先生(市民との協働)の派遣を推進する。			
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷市内の全小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。(小学校20回、中学校21回) ・深谷市道徳教育研修会を8月6日に実施し、「まごころ先生」の効果的な活用を図った事例を示した。(小学校22名、中学校12名参加) 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	「まごころ先生」活用率	小学校100% 中学校100%	「渋沢栄一こころざし読本」の積極的な活用を図るため、全ての小・中学校に「まごころ先生」を派遣した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	「青淵・学びの郷づくり」事業の特色ある心の教育の取組として、全小・中学校へ「まごころ先生」を派遣することで、「渋沢栄一こころざし読本」の活用もより積極的になり、渋沢栄一翁の心を受け継ぐ教育の推進を図ることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	まごころ訪問の実施		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】小学生の子どもが育てた花と手紙を高齢者に贈る活動を通して、子どものまごころと思いやりを育てる。			
平成26年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全小学校19校で実施。(合計1,748世帯) 【実施内容】 ・児童が、市教委から配布された花の苗を鉢に植え替え、一定期間育てる。また一人暮らしの高齢者に向けた手紙を書く。 ・児童が、各地区で行われる民生委員・児童委員の定例会に出向き、民生委員・児童委員に花と手紙を渡す。 ・民生委員・児童委員が、一人暮らしの高齢者のお宅への訪問時に、児童から預かった花と手紙を届ける。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	「まごころ訪問」利用率	小学校100%	市内全小学校でまごころ訪問を実施した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成25年度から、市内全小学校でまごころ訪問を実施している。子どもたちが育てた花と手紙を高齢者に贈る活動を通して、児童のまごころと思いやりを育てることができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	子ども読書活動の推進		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】「深谷市子ども読書活動推進計画」のもと、学校図書館の充実を図り、児童生徒が読書活動に親しめるようにする。			
平成26年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・全小・中学校へ図書館補助員を配置した。 ・学校図書館補助員研修会では、図書館補助員の業務等の充実を図ると共に、優れた取組の共有を図った。2回実施。(第1回平成26年10月8日。第2回平成27年3月25日。) ・児童生徒への効果的、かつ、円滑な教育活動の推進を図り、読書活動の充実等を図った。 ・「ふかや必読書30」を「広報ふかや」に掲載するなどの発信をし、良い本に触れることができるよう子どもたちの読書活動を支援した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	市臨時職員(図書館補助員)の配置	100% (29校/29校)	市内全小・中学校に配置した。	
	一人当たりの年間図書貸出し数 小学校	46.6冊	前年度より増	
一人当たりの年間図書貸出し数 中学校	5.4冊	前年度より微減		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	学校図書館補助員研修会では、図書館補助員の業務等の充実を図ると共に、優れた取組の共有を行う等の取組を行った。そのことにより、一人当たりの貸出し数は、小学校では目標値を大きく上回り、中学校はほぼ同数値となっているため、「現状維持」とした。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



施策名		いじめ・不登校の防止		点検評価表 作成課		学校教育課		
施策の方向性		○いじめ防止のため、児童生徒の人権感覚を育成するとともに、学校や家庭でのいじめの早期発見・早期対応に向けた取組を行います。また、教育相談活動を推進します。 ○不登校を未然に防止し、早期に対応するため、教育相談活動などを推進します。 ○中学校における不登校や、高校における中途退学を防ぐために、学校間の連携を深め、キャリア教育の充実に努めます。						
施策に関連する 主な取組		○いじめ対策の推進						
		○教育相談活動の推進						
		○不登校対策の推進						
		○小・中・高における「なめらかな接続」の推進(再掲)						
指標名		不登校児童生徒の割合						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	不登校(病気や経済的理由などを除く年間30日以上欠席)児童生徒の100人当たりの割合	深谷市	2.4%	2.1%	1.6%	1.2%		
		埼玉県	2.4%	2.4%	2.4%	2.0%		
		現状値 (平成23年度)	中学生2.4% (深谷市)			目標値 (平成29年度)	中学生2.2% (深谷市)	

平成26年度 重点施策	○深谷市いじめ問題対策連絡協議会の設置 ○学校相談員配置事業 ○総合的な不登校対策の推進	
------------------------	--	--

平成26年度 実績	○いじめ対策の推進 ・いじめ関連3条例の施行 ・深谷市いじめ問題対策連絡協議会と深谷市いじめ問題専門委員会の開催 ・学校への市費臨時職員の配置 学校総合支援員(全中学校)、スクールライフサポーター(小学校3校、中学校9校) ・いじめ状況等の調査の実施と見届け(全小・中学校、毎月) ○教育相談活動の推進 ・「深谷イーネット」専門相談ダイヤルの開設 ○不登校対策の推進 ・「不登校対策小中連携シート」と「アセス(学校適応感尺度)」の活用 ・「小1プロブレム」対応のための学校アシスタントティーチャー(全小学校)、小1問題対応非常勤講師(小学校7校)の配置 ○小・中・高における「なめらかな接続」の推進(再掲) ・「中1ギャップ」対応のための小学校教科支援エキスパート(全小学校)、小学校理科支援員(全小学校)の配置	
----------------------	--	--

総合評価	S	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない
-------------	----------	---

課題	いじめ認知件数、不登校児童生徒数ともに、減少傾向にあるが、きめ細かな支援を継続して行わなければ、簡単に増加してしまう可能性がある。今後も学校、家庭、地域社会、関係機関等が連携して、取り組んでいく必要がある。
-----------	---

評価コメント	・いじめについては、いじめ防止対策推進法に基づいて、深谷市の「いじめ防止基本方針」を策定し、いじめ関連の3つの条例を制定・施行するなど、多くの取組を行った。 ・不登校については、総合的な不登校対策が効果を現し始めており、成果指標の数値も1.2%と目標値を下回っている。 ・以上のことから、総合評価は「S」とする。
---------------	--

意見・提言	・いじめは難しい問題であるが、いじめ防止基本方針の策定などにより認知件数が減少しており、非常に素晴らしい。今後も頑張ってほしい。 ・インターネット使用のルール「安心ふっかネット」の作成にあたり、中学校の生徒会長が協議して提言している。生徒が当事者意識を持つことにより規範意識の向上が期待できる有意な取組で、非常に評価できる。
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	深谷市いじめ問題対策連絡協議会の設置	担当課	学校教育課
概要	いじめ防止対策推進法第14条に基づき、いじめの防止等に関係する機関及び団体の連携を図り、いじめを未然に防止し、早期発見、迅速に対応するための方策を協議する。		
平成26年度の実績	<p>○深谷市いじめ防止基本方針に基づき、平成26年4月1日から「深谷市いじめ問題対策連絡協議会条例」が施行された。（「深谷市いじめ問題専門委員会条例」と「深谷市いじめ問題調査委員会条例」も同日施行）</p> <p>○平成26年度開催日程 【5月30日】第1回深谷市いじめ問題対策連絡協議会（深谷市立教育研究所） 【11月28日】第2回深谷市いじめ問題対策連絡協議会（深谷公民館）</p> <p>○平成26年度深谷市いじめ認知件数は、小学校10件、中学校6件、計16件であった。すべての事案について、いじめは解消されており、解消率は100%である。</p> <p>○市内全ての小・中学校において、学校いじめ防止基本方針を策定し、学校いじめ防止等対策委員会を実施し、定期的なアンケート調査を行うなど、いじめの未然防止や早期発見等に努めている。</p> <p>○深谷市では、ネットトラブルやネットいじめ等を防ぐため、子どもたちが中心となり、学校、家庭、地域が一体となって、インターネット使用のルール「安心ふっかネット」を作成した。 ・第1回深谷市いじめ問題対策連絡協議会において、インターネット使用について、ルール作りの必要性が指摘され、児童生徒、教師、PTA等が、この問題について協議するとともに、中学校の生徒会長が集まり、「臨時の生徒協議会」を開催し、子どもたち自身で、ネット使用のルールについて活発に話し合い、提言案をまとめた。 ・その後、深谷市いじめ問題専門委員会において、専門家から意見を伺い、各団体の賛同を得て、第2回深谷市いじめ問題対策連絡協議会において「安心ふっかネット」を提言した。</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
	いじめ解消率	100%	小・中学校において認知された全てのいじめが解消に至っている。各学校のきめ細やかな対応の成果と言える。
担当課評価	評価区分	評価コメント	
	1	深谷市いじめ問題対策連絡協議会を立ち上げたことにより、学校と関係機関が連携していじめ問題に対応する体制ができた。「安心ふっかネット」を提言するなど、大きな成果をあげている。今後も、いじめ撲滅を目指し、未然防止、早期発見、早期対応に取り組んでいく。	
評価区分の考え方（1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討）			

重点施策評価表

重点施策名	学校相談員配置事業		担当課	学校教育課
概要	全中学校に学校相談員を配置し、いじめ・不登校等の未然防止に向けた支援の充実を目指す。			
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校相談員は、市内10校の中学校に配置され、教育研究所や中学校区の小学校とも連携を図り、不登校や不適應を未然に防ぐ教育相談活動を行っている。 ・教育研究所が主催し、学校相談員に対し3回の研修会を実施して、資質の向上に努めている。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	学校相談員による教育相談件数	6,404件	市内10校の合計数。	
	中学校不登校生徒数の割合	1.2%	市内中学生4,103名中51名が不登校。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	学校相談員による教育相談件数が平成25年度6,105件に比べ、増加しているが、不登校生徒数の割合が平成25年度1.6%に比べ減少しているため、効果がみられた。また、資質の向上を図るために、教育研究所にて、平成26年度も3回の研修会を実施した。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	総合的な不登校対策の推進		担当課	学校教育課
概要	<p>小中一貫教育を推進するとともに、学校総合支援員、教科支援エキスパート、アシスタントティーチャーなどを配置し、不登校の未然防止、早期対応を図る。</p>			
平成26年度の実績	<p>【学校総合支援員(Aタイプ)】 ・市内全中学校10校に配置し、不登校などに係る家庭訪問や学校運営上の様々な問題に対応した。</p> <p>【スクールライフサポーター】 ・小・中学校12校に配置し、不登校など児童生徒の個々に応じた学校生活全般に関する支援を行った。</p> <p>【小学校教科支援エキスパート】 ・市内全小学校19校に配置し、専門的な指導を充実させるとともに、小中のなめらかな接続に対応し、中1ギャップを軽減した。</p> <p>【アシスタントティーチャー】 ・市内全小学校19校に配置し、教科おける少人数指導や低学年(1・2年生)の生活指導の支援を行い、個に応じた指導や基礎学力の定着、学習習慣の育成を図った。</p> <p>【不登校対策小中連携シート】 ・不登校の未然防止に資するため活用した。小学校における児童の出席状況等を、中学校が適切に把握し、指導に生かすことを目的としている。</p> <p>【アセス(学校適応感尺度)】 ・不登校の未然防止に資するため活用した。学級全体の適応感や児童生徒個人の適応感が測れるソフトであり、年2回程度全小・中校で実施した。</p> <p>【適応指導教室】 ・不登校などの理由により、在籍する学校を長期間にわたり欠席している児童生徒に対して、基礎学力を補充し、社会性を身につけさせ、登校しようとする意欲を喚起した。平成26年度は、13人が通級し、部分復帰も含め9名が学校復帰した。</p> <p>【教育相談員】 ・不登校等の児童生徒に係る心の問題を解消するため、市内全中学校に配置した。相談室は、不登校傾向の児童生徒の居場所になることもあり、保護者の相談窓口としても機能している。</p> <p>【スクールカウンセラー】 ・不登校等の児童生徒が抱える問題の解決や軽減のために、心の専門家として教職員へのコンサルテーションや児童生徒、保護者へのカウンセリング等の活動を行った。</p> <p>【スクールソーシャルワーカー】 ・教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的な知識や技術を用いて、不登校など児童生徒が置かれた様々な環境への働きかけや、関係機関等とのネットワークを活用し、問題を抱える児童生徒に支援を行った。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	不登校児童生徒数	53人	不登校児童生徒数は、一昨年度90人、昨年度69人と確実に減少傾向にある。総合的な不登校対策の成果と言える。	
	小学校不登校児童の割合	0.02%	平成26年度の不登校児童数は2人であり、小学校では、過去4年間0.04%を下回っている。	
	中学校不登校生徒の割合	1.2%	平成26年度の不登校生徒数は51人であり、7年連続で減少傾向にある。	
担当課評価	評価区分 1	評価コメント 深谷市の総合的な不登校対策の取組により、不登校児童生徒数は7年連続で減少傾向にある。今後も、不登校ゼロを目指して、取り組んでいきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		生徒指導の充実		点検評価表 作成課		学校教育課		
施策の方向性		○生徒指導体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進します。 ○関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行います。						
施策に関連する 主な取組		○生徒指導体制の充実						
		○非行・問題行動の防止						
成果指標	指標名	児童生徒の暴力行為の発生件数						
	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	市内小・中学校における生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数	30件	16件	19件	8件			
		現状値 (平成23年度)	30件		➡	目標値 (平成29年度)	25件	

平成26年度 重点施策	○生徒指導に係る学校訪問の充実 ○スクールライフサポーターの配置	
平成26年度 実績	<p>○生徒指導体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・深谷市生徒指導推進協議会を年5回開催し、学校と警察との連携および小学校と中学校の連携を図った。 ・生徒指導に係る学校訪問を実施し、校内生徒指導体制の充実に向けた指導・助言を行った。 ・市独自のネットパトロールを実施した。 ・県と連携し、「小1問題対応非常勤講師」を小学校7校に配置した。 <p>○非行・問題行動の防止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールサポーターを県警に要請し、市内中学校に配置し、問題行動の未然防止を図った。 ・スクールライフサポーター(SLS)を市内小・中学校12校に配置し、積極的な生徒指導や問題行動の未然防止を図った。 ・市独自のネットパトロールを実施した。 ・全ての小・中学校で非行防止教室を実施した。 <p>・暴力行為発生件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校 対教師暴力0件、生徒間暴力0件、対人暴力0件、器物損壊0件、計0件 ・中学校 対教師暴力0件、生徒間暴力7件、対人暴力0件、器物損壊1件、計8件 	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	非行問題行動は減少傾向にあるが、個々に問題を抱えている児童生徒や家庭は多い。特別支援教育の視点で対応する必要があるとともに、学校だけでなく関係諸機関との連携がますます求められる。	
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導体制を充実させ、あらゆる教育活動を通じて積極的な生徒指導を推進し、関係機関や学校・家庭・地域が一体となって、非行・問題行動の防止に向けた取組を行った結果、市内小・中学校における生徒間暴力、器物損壊、対人暴力、対教師暴力の年間発生件数が減少した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。 	

意見・提言	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールライフサポーターの努力もあり、成果指標である暴力行為発生件数は半減している。これは相当な成果だと言える。 ・市独自のネットパトロールは、とても大事な取組である。様々なサイトがあり、パトロールや削除の手続などは大変だが、是非続けてほしい。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	生徒指導に係る学校訪問の充実		担当課	学校教育課
概要	いじめ・不登校問題をはじめ、児童生徒による非行・問題行動へ対応するため、「生徒指導に係る学校訪問」を実施し、市内全小・中学校における生徒指導の実態を把握し、課題解決に向けた協議等を通し、各学校における生徒指導のより一層の充実を支援しようとするものである。			
平成26年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度は、前期(5月下旬から7月)において、小学校7校、中学校10校、計17校を訪問した。後期(9月中旬から12月)においては、小学校13校、中学校4校、計17校を訪問した。 ・北部教育事務所指導主事、北部教育事務所いじめ・非行防止支援員、深谷市教育委員会指導主事、深谷市生徒指導担当専門員の4名が各学校を訪問し、協議や授業参観等を行った。 ・内容は、生徒指導の現状、児童生徒の様子について、非行・問題行動について、いじめ・不登校について、特別な支援を要する児童生徒への対応について、校内生徒指導体制について、家庭・地域、関係諸機関との連携について協議し、課題や課題解決に向けての具体的な取組について話し合った。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	暴力行為の発生件数	8件	平成20年度には68件あった暴力行為(対教師暴力・生徒間暴力・対人暴力・器物破損)の総数が、年々減少傾向にあり、平成26年度はついに一桁となった。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	深谷市内小中学校における暴力行為の発生件数は、6年連続で減少している。非行問題行動も減少しており、生徒指導に係る学校訪問の成果が表れている。今後も引き続き実施し、生徒指導の充実に努めたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	スクールライフサポーターの配置		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】スクールライフサポーターの配置により、積極的な生徒指導を推進し、非行・問題行動の未然防止を図る。			
平成26年度の実績	<p>○スクールライフサポーターの配置</p> <p>(1)目的 生徒指導の充実に資するため、授業に集中できるように個々に応じた指導支援を行う。また、学級での支援及び校内パトロール等を行うことで、情報をいち早くキャッチし、問題行動の発生を未然に防止する。</p> <p>(2)配置について(小学校3校、中学校9校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上柴東小学校、上柴西小学校、川本南小学校 ・明戸中学校、幡羅中学校、深谷中学校、藤沢中学校、南中学校、上柴中学校、岡部中学校、川本中学校、花園中学校 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	スクールライフサポーターの配置校	12校	スクールライフサポーターを12校で13名配置し、問題行動の未然防止を図ることができた。	
不登校児童生徒数 暴力行為の発生件数 非行問題の発生件数	53名 8件 55件	不登校児童生徒数が16名、暴力行為が12件、非行問題は68件減少し、個に応じた指導支援を行うことができた。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	スクールライフサポーターを配置することにより、個に応じた指導支援を行うことができ、生徒は集中して授業に取り組むことができている。また、校内パトロールを実施することで、情報をキャッチして問題行動の未然防止を図ることができ、スクールライフサポーターの配置効果がでている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		人権を尊重した教育の推進				点検評価表作成課		学校教育課		
施策の方向性		○人権教育を推進するための体制を充実するとともに、人権感覚の育成を図るための指導内容・指導方法を改善します。 ○関係機関と連携しながら、児童虐待の早期発見・早期対応に努めます。 ○男女共同参画の視点に立った教育を各学校の教育活動を通して推進します。								
施策に関連する主な取組		○人権教育推進体制の充実 ○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善 ○児童虐待防止教育の推進 ○男女共同参画の視点に立った教育の充実								
指標名		人権感覚育成プログラムを実践した学級の割合								
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値		
	市内の小中学校の全学級で、人権感覚育成プログラムを活用した授業実践を行った学級の割合	小学校	76%	85%	83%	89%				
		中学校	80%	86%	86%	87%				
		現状値 (平成23年度)	小学校 76% 中学校 80%		→		目標値 (平成29年度)	小学校 90% 中学校 90%		
平成26年度重点施策	○情報モラル教育の推進 ○人権教育総合推進地域事業 ○児童虐待防止教育の研修会の充実									
平成26年度実績	○人権教育推進体制の充実 ・新転任人権教育研修会の実施(7/25,28) ・ブロック別人権教育研修会の実施(市内10ブロック) ・人権教育懇談会の実施(8/25) ・人権教育主任研修会の実施 ○人権教育の指導内容・指導方法の工夫・改善 ・深谷市新任・転入教職員研修「情報モラルを指導する～インターネットの光と影～」を実施 ・ネットラブルにおける情報モラルに係る指導の実施(全19小学校・全10中学校) ・人権感覚育成プログラムを活用した校内研修の実施(小17校 中8校) ○児童虐待防止教育の推進 ・H26年度児童虐待対応研修会への参加(県主催 小19名 中10名) ・H26年度児童虐待アフターケア研修会への参加(県主催 市内5校) ・児童虐待防止に関する指導の実施(小18校 中10校)									
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない								
課題	明戸中学校区での人権教育総合推進地域事業の取組を、市内の小・中学校へ広めていく。									
評価コメント	・人権意識の高揚を図る研修会等を計画的に実施することにより、教職員が自らの人権意識を見つめ直し、確かな人権感覚を身に付け、人権教育に関わる指導を行うことができた。今後も引き続き、研修会等を計画的、継続的に実施することで、教職員の資質向上を図る必要がある。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。									
意見・提言	・非行防止教室への保護者の参加人数が、昨年度よりも相当増えている。非行防止には保護者の意識向上が効果的であるため、参加者の増加は評価できる。 ・明戸中学校区での人権教育研究の指定期間は終了するが、今後も研究結果を活用してほしい。 ・児童虐待防止の取組は、非常に進んでおり素晴らしい。 ・人権尊重の精神を身に付けていることは、社会人としても非常に大切なことなので、人権を尊重した教育については、今後も継続してほしい。									

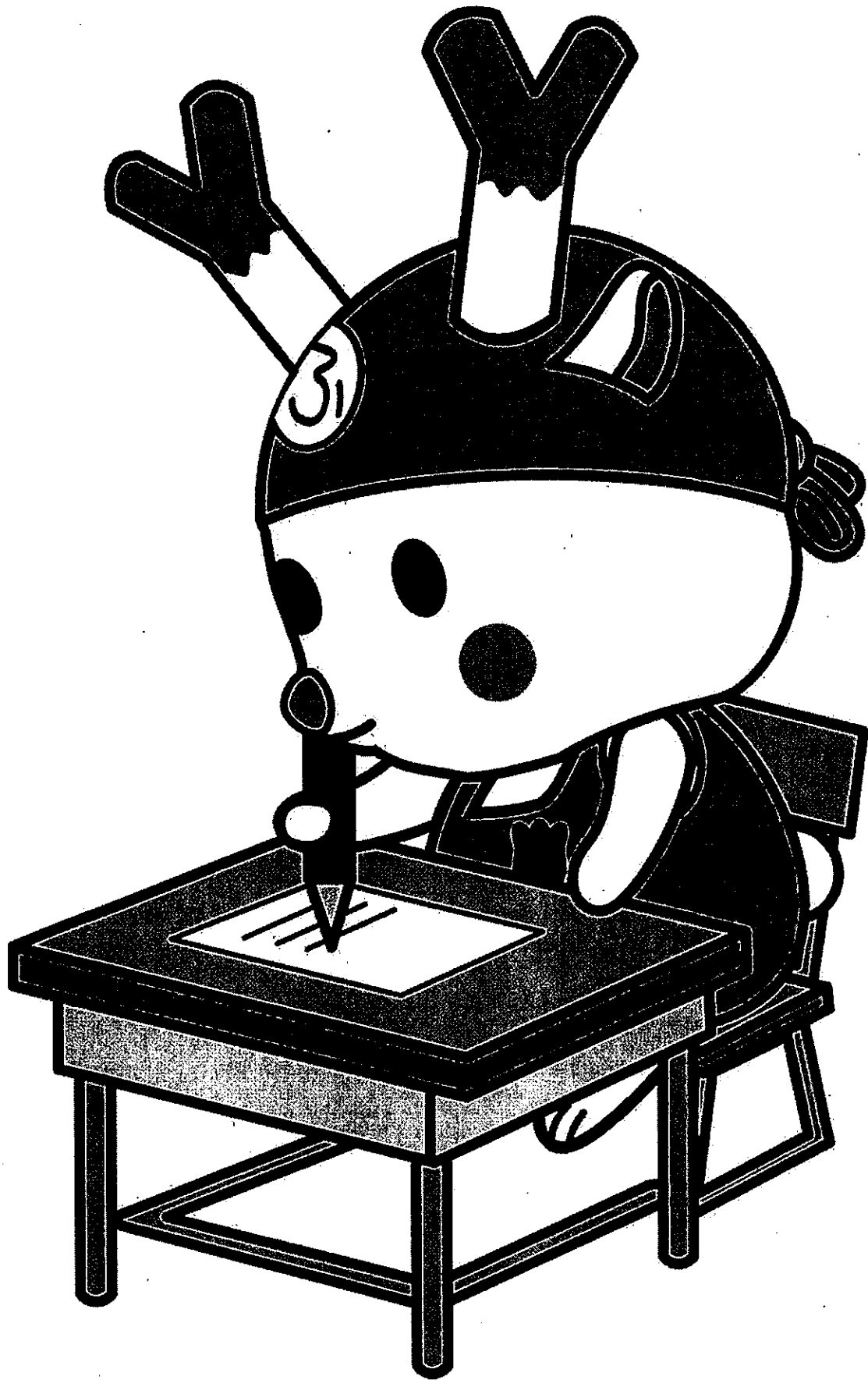
重点施策評価表

重点施策名	情報モラル教育の推進	担当課	学校教育課
概要	児童生徒の正しい判断力を身につけるため、情報モラル教育を充実する。		
平成26年度の実績	<p>〈取組〉深谷市新任・転入教職員研修にて、人権教育研修を行った。 ①対象:本年度新たに深谷市の教職員となった新任教員及び転入教職員等 ②内容:「情報モラルについて」と題し、児童生徒の正しい判断力を身につけさせるための指導方法について研修した。 ③講師:学校教育課課長補佐 〈取組〉各学校において、非行防止教室を実施し、ネットトラブルにおける情報モラルに係る指導を行った。 ①実施校及び対象:全19小学校・全10中学校の全児童生徒及び保護者 ②内容:携帯電話の所持率やトラブルの増加傾向をうけて、情報モラルに係る具体的な指導や啓発を行った。 ③講師:各学校から依頼(例:深谷警察署生活安全課職員)</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
情報モラル教育の実施状況	100%	予定された教職員に対する研修及び児童生徒への指導を行うことができた。	
非行防止教室保護者参加人数	1,487人	毎年、継続的に保護者への啓発がなされていることが、成果につながっている。	
評価区分	評価コメント		
担当課評価	1	教職員の研修、児童生徒への指導、保護者の啓発等、予定通り実施することができた。携帯電話の普及率やネットトラブルの現状から、今後も各事業を継続していくことが必要である。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	人権教育総合推進地域事業	担当課	学校教育課
概要	学校・家庭・地域が一体となり、一人一人の人権を尊重した教育の充実を図る。		
平成26年度の実績	<p>○学校、家庭、地域社会が一体となった人権教育の総合的な取組を教育委員会との連携・協力の下で推進し、地域全体で人権尊重の意識を高め、一人一人を大切にされた教育の充実を図る。</p> <p>【研究指定地域】 明戸中学校区 【研究指定期間】 平成24年度から平成26年度(3年間) 【研究費】 2校1園(年 82万円) 【研究テーマ】 学校・家庭・地域が一体となり、まごころと思いやりをはぐむ人権教育の推進</p>		
	指標名	実績値	指標別コメント
幼小中合同の人権教育研修会の実施回数	9回	幼小中の連携を図るため、人権教育研修会を定期的に実施している。	
評価区分	評価コメント		
担当課評価	1	平成26年度は研究委嘱の発表を実施し、市内・県内合わせ297名の参加者を迎え研究発表を実施することができた。3年間の研究を通して、幼小中の連携を図り、異校種間の交流、家庭、地域との交流の機会を広げることができた。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策評価表

重点施策名	児童虐待防止教育の研修会の充実		担当課	学校教育課
概要	児童虐待防止研修会等を実施し、児童虐待に対する教職員の意識と指導力の向上を図る。			
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各校における児童虐待対応に対する組織の設置(小19校、中10校) ・各校における児童虐待対応者の設置(小18校、中10校) ・児童虐待対応研修会への参加(小20名、中10名) ・児童虐待対応に関する職員研修の実施(小18校、中10校) ・県教委作成「児童虐待早期発見シート」の活用(小18校、中9校) ・児童虐待防止啓発視聴覚資料DVD「クリームパン」の視聴(小2、中4) 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	児童虐待対応研修会への参加状況	100% (29校/29校)	県・市が主催する児童虐待対応研修会へ参加し、児童虐待に対する教職員の意識を啓発する。	
児童虐待対応に関する職員研修の実施状況	96.5% (28校/29校)	児童虐待対応に関する職員研修を各校で実施し、教職員の指導力の向上を図る。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	児童虐待対応研修会への参加や職員研修の実施を予定どおり行い、児童虐待防止教育を推進することができた。今後も各事業を継続していくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



施策名		健康の保持増進				点検評価表 作成課		学校教育課	
施策の方向性		○児童生徒の健やかな心と体の育成のため、学校・家庭・地域の医療機関等の関係機関が連携して、組織的に学校保健活動を推進します。 ○朝食の欠食を解消することを重点に、学校・家庭・地域が連携して食育を推進します。 ○性に関する指導、薬物乱用防止教育などの現代的な課題に対応する教育を推進します。							
施策に関連する主な取組		○学校保健の充実							
		○食育の推進							
		○性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進							
指標名		毎日朝食を食べる児童生徒の割合							
成果指標	指標の説明		平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	市内全児童生徒を対象とする「体力等に関する調査」から、「朝食を毎日必ず食べる」と回答した児童生徒の割合	小学校5年生	94.0%	94.6%	95.6%	98.2%			
		中学校2年生	89.0%	89.6%	91.8%	94.4%			
			現状値 (平成23年度)	小学校5年生 94% 中学校2年生 89%		➔	目標値 (平成29年度)	小学校5年生 97% 中学校2年生 92%	
平成26年度重点施策		○食育の推進と朝食欠食の解消 ○給食費の検討 ○小・中学校給食場建設事業							
平成26年度実績		○学校保健の充実 ・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画の作成 ・保護者参加の学校保健委員会の実施 ○食育の推進 ・朝食のとり方を紹介した「こころざし」の配布 ・地場産物を活用した献立の作成 ・岡部小学校及び岡部西小学校に自校式給食場を建設した。 ○性に関する教育や薬物乱用防止教育の推進 ・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)の作成及び性に関する授業の実施 ・非行防止指導班「あおぞら」や熊谷保健所等外部指導者を活用しての薬物乱用防止教室の実施							
総合評価		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない					
課題		朝食欠食率を減らす取組をより充実させ、家庭に協力してもらうための方策を考える必要がある。							
評価コメント		・児童生徒の発達段階に応じた学校保健計画や指導計画を全小・中学校で作成するとともに、学校保健委員会を全小・中学校で年1回以上実施することができた。 ・毎日朝食を食べている児童・生徒の割合が、小学校5年生は2.6ポイント、中学校2年生は2.6ポイント向上した。 ・児童生徒の発達段階を踏まえた性に関する指導全体計画(エイズ教育を含む)を作成し、性に関する授業を計画的に実施することができた。 ・全小・中学校で薬物乱用防止教室を実施することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							
意見・提言		・共働き家庭の増加などの社会情勢を鑑みると、成果指標である朝食を食べる児童生徒の割合が向上していることは、施策の成果が現れてきていると評価できる。 ・薬物乱用防止教育は、小学生の段階から行っていくことが効果的であるため、全小・中学校での薬物乱用防止教室の実施は、素晴らしい取組である。							

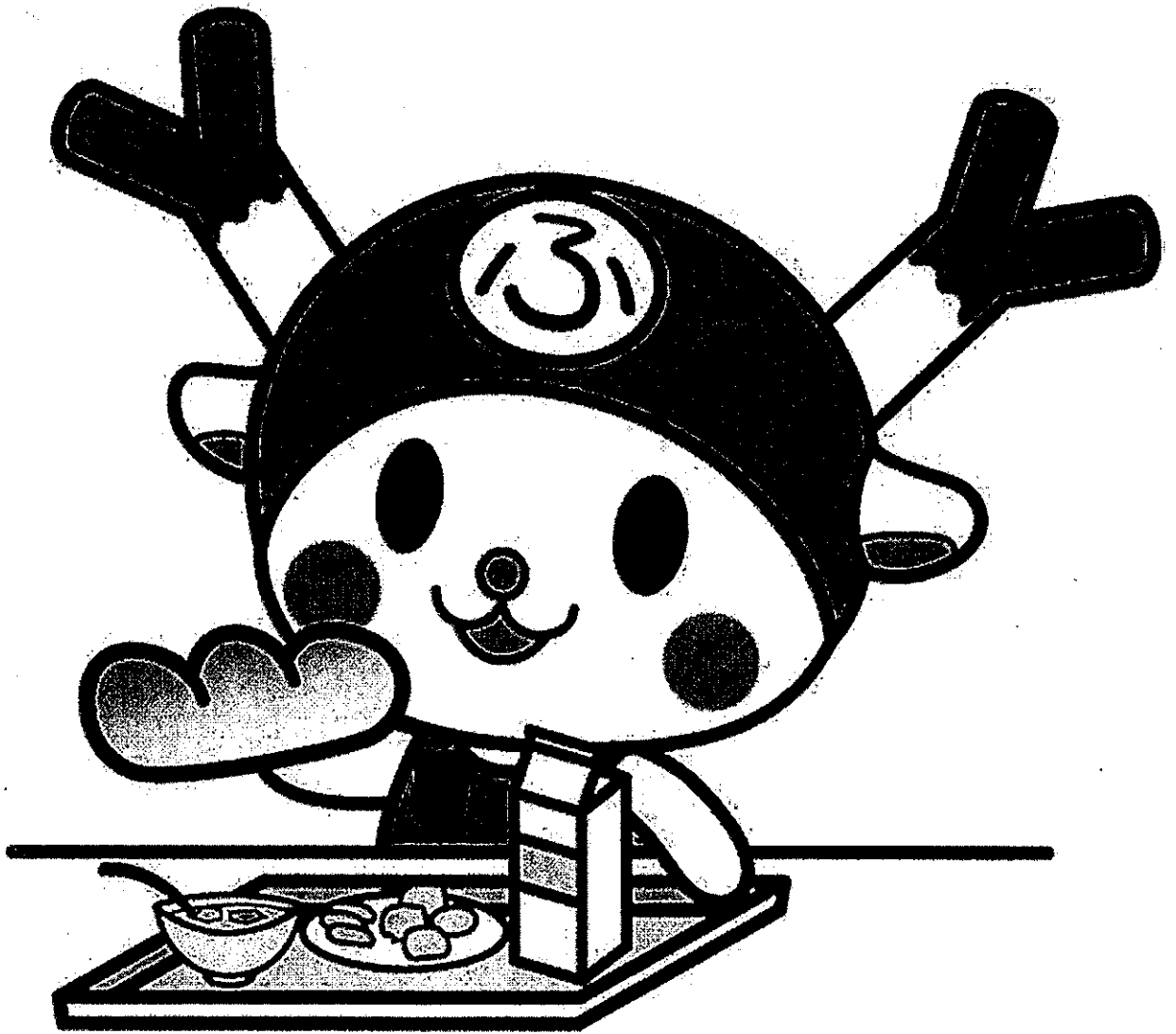
重点施策評価表

重点施策名	食育の推進と朝食欠食の解消		担当課	教育総務課 学校教育課
概要	<p>【青淵学びの郷づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と連携して朝食欠食の解消に取り組み、子どもたちに望ましい食習慣を身に付けさせる。 ・地場産物の活用を推進し、地域の特色を生かした給食の充実を図る。 ・栄養教諭等を中心に学校における食育を推進する。 			
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・体力向上推進委員会に栄養教諭(2名)も委員として参加し、朝食摂取率の向上を目標に取り組んだ。 ・教育委員会だより「こころざし」で、朝食のとり方について紹介した。 ・各小・中学校において、積極的に地場産物の購入に努め、地場産物を活用した献立を作成した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	地場産物を活用した献立の作成状況	100% (29校/29校)	全小・中学校で地場産物を活用した献立を作成することができた。	
	朝食を毎日食べている児童生徒の割合	小学校は96.8% 中学校は92.9%	朝食を毎日食べている児童生徒の割合は、小学校は1.2ポイント、中学校は1.1ポイント向上した。	
学校給食における地場産物の使用割合	32.6%	県の「食育推進基本計画」で定められた目標30%を達成した。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	朝食欠食の解消に向けた取組については、「こころざし」を各家庭に配布し、家庭に協力を求めることができた。また、学校に地場産物を積極的に活用するように呼びかけた結果、地場産物を使用した割合は32.6%となった。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	給食費の検討		担当課	教育総務課
概要	給食費については、平成19年4月に合併以前の1市3町で異なっていた給食費を統一して以来、据え置いてきた。しかし、食材価格の高騰や消費税率の改定により、質的水準を維持することが厳しい状況のため給食費について検討する。			
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校保護者を対象に給食費に関する調査を実施した。 ・給食についての特集(給食経費、給食ができるまでの流れ)を深谷市教育委員会だより「こころざし」に掲載し、全家庭に配付した。 ・学校給食運営委員会を開催し、給食費の改定に係る諮問について、審議した。 <p>【答申の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校給食費 月3,800円 → 月4,100円 ・中学校給食費 月4,500円 → 月4,900円 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	保護者を対象とした給食費に関する調査を実施した小・中学校数	29校/29校	幅広く保護者の意見を取り入れ、給食費について検討することができた。	
	深谷市教育委員会だより「こころざし」に給食に関する記事を掲載した回数	1回	給食の現状を伝えることにより、理解を深めることができた。	
学校給食運営委員会の開催回数	1回	給食費の改定について審議することができた。		
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	4	給食費の検討については、各小・中学校保護者の意見を取り入れながら、学校給食運営委員会で審議し、平成27年4月より改定することが決定した。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	小・中学校給食場建設事業		担当課	教育施設課
概要	すべての児童への適温給食の提供や、食育指導の充実を図るため、岡部地区及び花園地区で行っている給食センター方式によるものを、自校方式にするために、施設整備を行うものである。			
平成26年度 の実績	<p>○建設工事の実施 ・岡部小学校及び岡部西小学校に自校式給食場を建設した。</p> <p>○設計業務の実施 ・花園中学校の自校式給食場建設工事設計業務を完了した。</p>			
	指標名		実績値	指標別コメント
	給食場建設工事 (年度計画2校)	2校	建設工事が完成した学校数。 (岡部小・岡部西小)	
	給食場建設工事設計業務 (年度計画1校)	1校	建設工事設計業務が完了した学校数。 (花園中)	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成26年度予定の建設工事(2校)及び設計業務(1校)は計画どおりに実施した。引き続き設計業務が完了している花園中学校の建設に向けた事務手続きを進めたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



施策名		体力の向上と学校体育活動の推進				点検評価表 作成課		学校教育課		
施策の方向性		○「教育に関する3つの達成目標」(体力)を推進します。 ○体力向上推進委員会を中心に、家庭や地域社会と連携しながら体力向上推進事業に取り組みます。 ○専門的な指導力を有する地域の外部人材を積極的に活用するなど運動部活動の充実に取り組みます。								
施策に関連する 主な取組		○学校体育の充実								
		○「教育に関する3つの達成目標」の推進								
		○運動部活動の充実								
指標名		新体カテストの結果								
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値		
	新体カテスト結果の5 段階絶対評価で上位2 ランク(A, B)の児童生 徒の割合	小学校	52.4%	51.8%	53.6%	56.7%				
		中学校	47.1%	57.8%	56.0%	57.0%				
		現状値 (平成23年度)	小学校 52.4% 中学校 47.1%			➡	目標値 (平成29年度)	小学校 57% 中学校 52%		

平成26年度 重点施策	○武道指導の充実 ○体力向上の取組の推進	
------------------------	-------------------------	--

平成26年度 実績	○学校体育の充実について ・体力向上推進委員会の実施(年6回) ・実技研修会の実施 ・小学校水泳実技指導者講習会 ・小学校体育実技指導者講習会 ・深谷市中学校武道(柔道)指導者研修会 ・外部指導者を活用する柔道授業の実施(6中学校) ○教育に関する3つの達成目標 ・新体カテストの実施 ・走力向上「50m走にチャレンジ」の実施 ○運動部活動の充実 ・外部指導者の活用 40名を全10中学校にわけて派遣	
----------------------	---	--

総合評価	A	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない
-------------	----------	---

課題	柔道授業の外部指導者の確保と走力を向上させるためのプログラムの作成・活用が課題である。
-----------	---

評価コメント	・新体カテストの結果における上位2ランクの児童生徒の割合は、前年度と比較すると、小学校では3.1ポイント、中学校では1.0ポイント向上した。 ・全中学校で外部指導者を活用した部活動を実施した。外部指導者を活用することにより、安全かつ専門的な指導及び個に応じたきめ細かな指導を実施することができた。その結果、大きな怪我をした生徒は1人もいなかった。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	---

意見・提言	・成果指標である新体カテスト結果の評価で、上位2ランクの児童生徒の割合が少しずつ上がっており、評価できる。 ・中学校の柔道の授業で、大きな怪我をした生徒が1人もいなかったことは、安全に留意して指導を行った結果であり、評価できる。
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	武道指導の充実		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】教員の研修を充実し、安全な武道の学習を推進する。			
平成26年度の実績	1 市教委主催の「深谷市中学校武道(柔道)指導者研修会」を開催 2 外部指導者を活用する柔道授業の実施 (1)対象校 6校(明戸中、幡羅中、深谷中、南中、岡部中、川本中) (2)外部指導者及び実施期間 ・明戸中学校 平成26年 5月26日(月)～平成26年 6月20日(金) ・幡羅中学校 平成26年11月 3日(月)～平成26年12月 5日(金) ・深谷中学校 平成26年11月17日(月)～平成26年12月12日(金) ・南中学校 平成26年12月 1日(月)～平成27年 1月30日(金) ・岡部中学校 平成27年 1月12日(月)～平成27年 2月13日(金) ・川本中学校 平成26年 9月29日(月)～平成26年10月31日(金)			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	柔道実技講習会の開催回数	1回	夏季休業中に、柔道実技講習会を開催し、教職員の指導力を向上させることができた。	
	柔道の授業がある学校への外部指導者の配置状況	100% (6校/6校)	柔道の授業がある6校全てに外部指導者を配置することができ、安全かつ効果的な授業が展開できた。	
	柔道の授業における大きなけがをした生徒の数	0人	柔道の授業において、大きなけがをした生徒は1人もいなかった。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	武道(柔道)指導者研修会を実施することで、柔道の授業の内容や安全面に留意した指導方法を学ばせることができた。教職員の指導力を向上させるとともに、外部指導者を活用したことで、けが人を1人もだすことなく、個に応じた効果的な指導が実施できた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	体力向上の取組の推進		担当課	学校教育課
概要	「50m走にチャレンジ」を推進するとともに、体育授業を充実し、児童生徒の体力向上を図る。			
平成26年度の実績	1 小・中学校で「50m走にチャレンジ」を実施 (1)目的 深谷市小・中学校体力向上に係る重点種目である50m走において、自己の記録を高める。 (2)対象 小学校1年生～中学校3年生 (3)実施期間 平成26年11月4日(火)～11月21日(金) (4)その他 新体力テスト実施要項に準じて実施 各学年上位10名に記録証を発行 2 市教委主催の「実技指導者講習会」を開催 (1)小学校 体育実技指導者講習会 (2)中学校 武道(柔道)指導者研修会			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	新体力テストにおける50m走の記録が県平均を上回った割合	38.8%	県平均値を上回った割合が、昨年度と比較すると11.2ポイント下回った。	
	実技指導者講習会の実施回数	3回	小学校は体育実技指導者講習会、中学校は柔道実技講習会を開催し、教職員の指導力を向上させることができた。	
	新体力テストにおける上位2ランクの児童生徒の割合	小学校56.7% 中学校57.0%	新体力テストにおける上位2ランクの児童生徒の割合は、小学校では3.1ポイント、中学校では1.0ポイント向上した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	小・中学校共に、実技指導者講習会を開催し、教職員の指導力を向上させるとともに、体育の授業を充実させることができた。新体力テストにおける上位2ランクの児童生徒の割合は、小学校では3.1ポイント、中学校では1.0ポイント向上した。しかし、50m走では、県平均値を上回った割合は、11.2ポイント下回った。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標Ⅲ 信頼される学校教育の推進

Ⅲ-1

施策名		信頼される教職員の育成		点検評価表 作成課		学校教育課		
施策の方向性		○教職員の経験年数や専門性に応じた適切な研修を充実します。 ○人事評価制度を充実し、教職員の人事管理や資質・能力の向上に取り組みます。 ○教員が子どもと向き合う環境づくりのための取組を推進します。 ○教職員の健康管理に配慮し、悩みを抱える教職員に対する取組を推進します。						
施策に関連する主な取組		○教育研究所の機能の充実			○指導力が不足している教員への対応			
		○経験豊かな人材の活用			○子どもと向き合う環境づくりの推進			
		○教職員研修の充実			○悩みを抱える教職員に対する取組の推進			
		○人事評価制度の充実						
指標名		教職の経験年数に応じた研修の実施状況						
指標の説明		平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
成果指標	若手や中堅・ベテランの教職員、管理職等の経験年数に応じて必要とされる資質・能力を高める研修をそれぞれ年2回実施する	0	0	2	2			
	若手教職員研修の回数	0	0	0	2			
	中堅教職員研修の回数	2	2	3	3			
	管理職研修の回数	現状値 (平成23年度)		管理職対象の研修会2回の実施		→		目標値 (平成29年度)
		①若手教職員対象の研修を実施(2回) ②中堅・ベテラン教職員対象の研修を実施(2回) ③管理職対象の研修を実施(2回)						
平成26年度重点施策		○教職員の指導力の向上 ○経験年数に応じた教員研修 ○ICT活用による校務支援						
平成26年度実績		○教育研究所の機能の充実 ・研修・学校支援・児童生徒支援・保護者支援・地域支援の充実 ○経験豊かな人材の活用 ・児童生徒の問題行動や保護者・地域との対応等、学校が抱える様々な課題の解決に向けた支援体制として、学校総合支援員10名を配置 ○職員研修の充実 ・研究所協力員研修会、各教科等担当指導主事による研修会等の実施 ・若手教職員対象の研修会を2回実施 ・中堅・ベテランの教職員対象の学校運営研修会を2回実施 ・市内園長・校長会議において、管理職対象の研修会を3回実施 ○人事評価制度の充実 ・評価者研修会の実施 ○指導力が不足している教員への対応 ・指導力が不足している教員へ、各指導主事が学校を訪問し繰り返し指導を実施 ○子どもと向き合う環境づくりの推進 ・校務支援システムの更新に伴い、子どもと向き合う時間の確保のため指導要録の電子化を実施 ○悩みを抱える教職員に対する取組の推進 ・担当委嘱医による教職員メンタルヘルス相談の実施 年間12回						
総合評価		A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない				
課題		・若手、中堅・ベテラン教職員の経験年数に応じて必要とされる資質・能力を高める研修の内容の充実を図る。						
評価コメント		・管理職を対象とした研修会を年間3回実施するとともに、若手教職員研修を2回実施した。中堅教職員研修についても、平成26年度より2回実施した。 ・教職員の指導力の向上については、研究所協力員による、小中一貫教育の全体計画・指導計画を作成した。また各教科等の担当指導主事による研修会等を実施した。 ・子どもと向き合う環境づくりのために、ICT活用による校務支援システム更新に伴い指導要録の電子化を行った。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。						
意見・提言		・中堅・ベテランの教職員対象の研修が始まったことは、素晴らしい。 ・教職員の研修会参加人数や教職員一人あたりの研修会参加回数が増加しており、教職員の意欲の向上が読み取れる。						

重点施策評価表

重点施策名	教職員の指導力の向上		担当課	学校教育課
概要	小中一貫教育における教職員の交流を活性化するとともに、合同研修会などを実施し、授業改善を図る。			
平成26年度の実績	【深谷市立教育研究所を会場にした教員の研修会】 ・研究所協力員研修会 ・各教科等担当指導主事による研修会 ・小中一貫教育研修会 ・生徒指導 ・教育相談中級研修会 ・巡回相談研修会 ・特別支援教育担当者研修会 ・特別支援教育コーディネーター研修会 ・通級指導教室研修会 ・セルフサポート教室研修会 ・早期支援事業研修会 ・就学支援委員会 ・生徒指導研修会等			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	教育研究所における研修会参加人数	5,780人	参加した教員の延べ人数	
	研修会に参加した回数(1人あたり)	6.9回 (5,780回/835人)	幼稚園、小中学校の教職員(835人)から1人あたり約7回の研修参加となっている。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成26年度に教育研究所で行われた教員研修会の参加者は延べ5,780人に達した。引き続き、教員研修会を開催していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	経験年数に応じた教員研修		担当課	学校教育課
概要	2年次教員研修会、中核教員研修会等の経験年数に応じた研修会の実施や自主的な研修会の支援を通じ、教職員の資質と力量の向上を図る。			
平成26年度の実績	市教育委員会が主催し、実施した研修会 ・初任者研修(初任者研修、施設研修) ・セカンドステップ研修(2年次研修) ・学校運営研修会(中堅・ベテランの教職員対象) ・管理職対象研修 ・臨時教職員、非常勤講師等に関わる研修の実施(アシスタントティーチャー、教科支援エキスパート、図書館補助員、スクールライフサポーター、学校相談員、学校総合支援員、理科支援員等) ・教科等指導法研修(算数・数学、理科、英語、体育、道徳) ・人権教育にかかる研修(新任教職員・転入教職員研修)			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	若手教職員研修の回数	2回	セカンドステップ研修として2年次の教職員を対象とした研修を2回行った。	
	中堅教職員研修の回数	2回	学校運営研修会として、各学校より中堅・ベテランの教職員対象の研修会を2回実施した。	
管理職研修の回数	3回	校長を対象とした研修会を3回実施した。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	たくさんの新任教職員が入ってくる中、指導力の向上とベテラン教職員の指導技術継承のため、若手教職員研修を実施することができた。市教育委員会の指導主事も指導者として参加しながら、各学校でも校内研修等で指導力向上のための研修を実施している。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	ICT活用による校務支援		担当課	学校教育課
概要	【青淵学びの郷づくり】各小・中学校の校務用コンピュータに校務支援システムを整備することにより、名簿や出欠席、成績などの一元化された情報を、通知表や指導要録、調査書などに反映し、活用できるようにし、教職員の事務的業務の負担を軽減し、子どもと向き合う時間を確保できるようにする。			
平成26年度 の実績	<p>・すべての小中学校において指導要録と出席簿の電子化を実施するとともに、抄本や調査書についても電子化し、教師が子どもと向き合う時間を確保した。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	教師の満足度	99.2%	指導要録等の電子化に対し、「よかった」という回答が、99.2%と高い満足度であった。	
	校務支援システムによって軽減された時間	65.4時間	手書きの時と比べ、成績処理等にかかる時間を大幅に短縮することができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	今回の校務支援システムの更新により、指導要録や調査書が電子化されたことで、かなりの負担軽減につながっていると、教職員からの感想が寄せられている。今後は、現在のシステムを活用し、さらなる効率化を進めていく必要がある。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



施策名		子どもたちの安心・安全の確保		点検評価表 作成課		学校教育課			
施策の方向性		○東日本大震災の教訓を踏まえ、子どもたちに危機管理能力の基礎を身に付けさせるため、学校における実践的な避難訓練などを計画的に実施します。 ○学校における危機管理体制の整備・充実と教職員の危機管理能力の向上に努めます。 ○児童生徒の防犯や交通安全について、地域や関係機関と連携し、地域ぐるみの学校安全体制の整備を推進します。 ○災害に強い情報基盤として、ネットcommonsを全ての小・中学校に導入し、活用していきます。							
施策に関連する主な取組		○安全教育の推進							
		○学校の危機管理体制の整備・充実							
		○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進							
指標名		緊急地震速報を活用した避難訓練の実施率							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を年1回以上実施する	小学校	63.1%	100%	100%	100%			
		中学校	80.0%	100%	100%	100%			
		現状値 (平成23年度)	小学校 63.1% 中学校 80%		➡		目標値 (平成29年度)	小学校 100% 中学校 100%	

平成26年度 重点施策	○緊急地震速報を活用した避難訓練の実施 ○緊急連絡サイトの活用促進	
平成26年度 実績	○安全教育の推進 ・市内全小・中学校で交通安全教室を実施した。 ○学校の危機管理体制の整備・充実 ・市内全小・中学校が緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を実施した。 ○家庭・地域と連携した防犯、交通安全教育の推進 ・各小・中学校長、PTA会長、スクールガードリーダー、深谷警察署、寄居警察署、道路管理課、学校教育課からなる深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。 ・災害に強い情報基盤として、ネットcommonsを全ての小・中学校で活用し、「緊急連絡サイト」を設置した。 ・学校が主体となって、保護者や地域の協力を得ながら、安全点検を実施した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない
課題	・緊急連絡サイトのアクセス日(毎月11日)におけるアクセス率を向上させることが課題である。 ・通学路安全点検の結果を受けて、危険箇所等に係る児童・生徒への指導と、地域や保護者への情報提供を適宜行っていく必要がある。	
評価コメント	・埼玉県教育委員会の方針でもある「緊急地震速報を活用した避難訓練」を全小・中学校で1回以上実施できた。 ・災害時に強い双方向の「緊急連絡サイト」を、全小・中学校でホームページ上に設置できた。 ・深谷市通学路安全対策連絡会を年2回実施し、通学路の危険箇所について共通理解を図り、地域ぐるみで取り組む安全推進体制を強化した。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・緊急連絡サイトは、定期的にテストを行い、また実際に活用するなど、着実に運用しており評価できる。緊急時に有効な手段であるため、普段から運用体制を整えておく必要がある。 ・スクールガードは、取組が定着し、体制が確立した印象を受けた。今後も継続してほしい。 ・不審者等の児童・生徒の防犯等に関する情報について、近隣地域を含めた情報の共有化を進めてほしい。
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	緊急地震速報を活用した避難訓練の実施		担当課	学校教育課
概要	緊急地震速報を活用した避難訓練を全ての小・中学校で実施する。			
平成26年度の実績	1 緊急地震速報を活用した避難訓練について (1)ねらい 緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を実施することにより、緊急地震速報を聞いた時の避難の仕方を学び、迅速に避難できるようにする。 (2)実施校 小学校19校、中学校10校 (3)実施回数 29回(全小・中学校各1回)			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	緊急地震速報の音源を活用した避難訓練の実施状況(各校年1回以上)	100%	全ての小・中学校において緊急地震速報の音源を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	全ての小・中学校において緊急地震速報の報知音を活用した避難訓練を1回以上実施することができた。訓練を実施することで、緊急に地震が起きた場合にも、安全かつ迅速に避難できるように、避難経路や避難の方法について児童生徒は理解することができた。また、教職員においても、地震が起きたときの役割や児童生徒の誘導について理解することができた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	緊急連絡サイトの活用促進		担当課	学校教育課
概要	学校ホームページに設置した「緊急連絡サイト」を定期的にテスト運用し、学校と保護者とが緊急時に連絡を取れる体制を整えるとともに、大雨や台風、地震などの災害発生時に実際に活用する。			
平成26年度の実績	・緊急連絡サイトのテスト運用を年間6回実施した。 ・回答者数の市内平均は小学校で49.8%、中学校で29.0%であった。 ・平成26年度中に1度でもテスト運用に参加した家庭の割合は小学校で75.1%、中学校で52.3%であった。 ・実際に「緊急連絡サイト」が活用された日は以下の4日間 平成26年 9月16日:地震時の通学路等の状況把握 平成26年10月 6日:台風18号の接近に伴う、危険箇所の情報収集			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	一度でも緊急連絡サイトのテスト運用に参加した家庭の割合(小学校)	75.1%	1度でもテスト運用に参加した家庭の割合が80%を超えている学校が9校あった。	
	一度でも緊急連絡サイトのテスト運用に参加した家庭の割合(中学校)	52.3%	80%を超える学校がある一方、参加率が30%台の低い学校も数校ある。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	中学校でのテスト運用への参加率が低いものの小学校での参加率は高く、市内全校で同じシステムを使っていることから、使い方を知っている家庭の割合は中学校でも確実に増えている。東日本大震災の教訓を忘れないよう、今後も毎月11日のアクセス日を定着させ、いざというときの備えとしたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		学習環境の整備・充実						点検評価表 作成課	教育総務課
施策の方向性		○計画的な施設整備により、安全で快適な学校環境づくりを進めます。 ○学校図書館の資料の充実や、学校の情報化を推進し、教材・備品の整備を推進します。							
施策に関連する主な取組		○学校施設の整備推進 ○学校図書館の整備・充実 ○ICT環境の整備 ○学校教材・備品の計画的な整備							
指標名		学校図書館図書標準を達成した学校の割合							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	学校図書館に整備すべき蔵書を標準として、文部科学省が定める基準を達成した学校数の割合	小学校 94.7%	100%	100%	94.7%				
		中学校 100%	100%	90%	100%				
		現状値 (平成22年度)	小学校 89.5% 中学校 100%		➔	目標値 (平成29年度)	小学校 100% 中学校 100%		

平成26年度 重点施策	○小・中学校施設大規模改修事業 ○小・中学校及び幼稚園施設整備維持事業 ○子ども新聞の備付け	
平成26年度 実績	<p>○学校施設の整備推進</p> <p>・小・中学校施設大規模改修事業については、計画どおり本郷小学校体育館の大規模改修工事、大規模改修工事の設計(深谷小・花園中・岡部中・川本中)、及び、体育館や武道場の天井等落下防止対策の設計(小学校4校・中学校8校)を行った。</p> <p>・小・中学校及び幼稚園施設整備維持事業については、小学校19校(特別教室128室、給食場16室)、中学校10校(特別教室65室、給食場9室)、幼稚園4園(深谷、深谷西、上柴西、花園幼稚園の保育室11室)にエアコンの設置を行った。</p> <p>○学校図書館の整備・充実</p> <p>・全小・中学校に、子ども新聞を備え付け、児童生徒の学習活動を支援した。</p> <p>・学校図書館の蔵書の充実を図るため、例年どおり、各学校で新たに図書を購入した。</p> <p>○ICT環境の整備</p> <p>・小学校12校の校務用コンピュータ及び職員室のネットワーク機器の入替を行った。</p> <p>・小学校9校のコンピュータ室の機器の入替を行い、タブレットPCにもなるハイブリッド型PCを導入した。</p> <p>・校務支援システムを更新し、全小・中学校において指導要録や調査書等を電子化した。</p> <p>○学校教材・備品の計画的な整備</p> <p>・特別教室(理科室、図工室等)21教室で、老朽化した椅子を更新した。</p> <p>・小学校3校、中学校2校で、老朽化した電話設備を更新した。</p> <p>・全小・中学校で、耐用期間を終了する自動体外式除細動器(AED)を更新した。</p>	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	<p>・学校施設、設備、備品の老朽化への対応が求められている。</p> <p>・教室数の増加により、岡部西小学校の蔵書数が、学校図書館の標準図書冊数を下回った。(標準図書冊数に対する充足率99.6%)</p> <p>・学校備品の整備を着実に進めるために、毎年度、一定の予算の確保が必要になる。</p>	
評価コメント	<p>・計画どおり小・中学校の大規模改修を進めることができた。</p> <p>・小・中学校の特別教室を中心にエアコンを設置することができた。</p> <p>・各学校において学校図書館の標準図書冊数を下回らないように、計画的な整備が必要である。</p> <p>・児童生徒の活字離れ対策として、全小・中学校に、新たに子ども新聞を備え付けることができた。</p> <p>・校務支援システムを更新し、教職員の事務の負担を軽減することができた。</p> <p>・老朽化した多くの学校備品を更新することができた。</p> <p>・以上のことから、総合評価は「A」とする。</p>	

意見・提言	<p>・小・中学校、幼稚園へのエアコン設置等の教育環境の整備は、しっかり予算を確保し、計画的に行われており、評価できる。</p>
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	小・中学校施設大規模改修事業		担当課	教育施設課
概要	校舎や体育館を、通常の学校施設として、また、災害時の避難場所として安全にするため、地震に対する安全性の確保及び老朽化や教育内容の変化に対応できるように、構造部材の耐震化及び施設の改修工事を実施するものである。			
平成26年度の実績	○大規模改修工事の実施 ・本郷小体育館の大規模改修工事を実施した。			
	○大規模改修工事設計業務 ・深谷小体育館、花園中柔剣道場、岡部中技術科棟(解体)、川本中管理棟大規模改修工事設計業務を完了した。			
	○大規模改修工事設計業務(天井等落下防止対策) ・幡羅小ほか3校天井等落下防止対策工事設計業務を完了した。(幡羅小・大寄小・常盤小・八基小) ・明戸中ほか7校天井等落下防止対策工事設計業務を完了した。(明戸中・幡羅中・深谷中・藤沢中・豊里中・南中・上柴中・岡部中)			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	大規模改修工事(年度計画1校)	1校	大規模改修工事が完成した学校数。(本郷小体育館)	
大規模改修工事設計業務(年度計画4校)	4校	大規模改修工事設計業務が完了した学校数。(深谷小・花園中・岡部中・川本中)		
大規模改修工事設計業務(天井等落下防止対策)(年度計画12校)	12校	大規模改修工事設計業務(天井等落下防止対策)が完了した学校数。(上記小学校4校及び中学校8校)		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	平成26年度予定の大規模改修工事(1校)、大規模改修工事設計業務(4校)及び大規模改修工事設計業務(天井等落下防止対策)(12校)は計画どおりに実施した。引き続き、設計業務が完了した深谷小学校体育館大規模改修工事及び幡羅小体育館天井等落下防止対策工事に向けた事務手続きを進めたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	小・中学校及び幼稚園施設整備維持事業		担当課	教育施設課
概要	児童生徒及び園児が安全に学校(幼稚園)生活を送ることができる環境を整備するため、学校施設の適正な維持管理を行うものである。			
平成26年度の実績	○小・中学校の特別教室、給食場及び幼稚園保育室へのエアコン設置 ・小学校19校(特別教室128室、給食場16室)、中学校10校(特別教室65室、給食場9室)へのエアコン設置工事を実施した(小・中学校共に設置完了は、平成26年8月)。 ・幼稚園4園(深谷、深谷西、上柴西、花園幼稚園の保育室11室)へのエアコン設置工事を実施した(設置完了は、平成26年6月)。なお、左記以外の幼稚園については、既設、又はレンタル方式により設置済となっている。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	小学校(特別教室、給食場)エアコン設置数	19校144室	特別教室、給食場にエアコンを設置した数	
	中学校(特別教室、給食場)エアコン設置数	10校74室	特別教室、給食場にエアコンを設置した数	
	幼稚園保育室エアコン設置数	4園11室	保育室にエアコンを設置した数(深谷、深谷西、上柴西、花園幼稚園)	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	4	今後は設置済のエアコンについて、維持管理を進めていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策評価表

重点施策名	子ども新聞の備付け		担当課	教育総務課
概要	小・中学校図書室に子ども新聞を備え付け、児童生徒の学習活動を支援する。			
平成26年度 の実績	【目的】 ・児童生徒の活字離れ対策として、子ども新聞を小・中学校の図書室に備え付ける。 【実績】 ・全小・中学校の図書室に、子ども新聞を備え付けた。 ・必要に応じて図書室に、新聞ラックを設置した。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	子ども新聞を備え付けた小学校数	19校/19校	全小学校に子ども新聞を備え付けることができた。	
	子ども新聞を備え付けた中学校数	10校/10校	全中学校に子ども新聞を備え付けることができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	全小・中学校に、子ども新聞を備え付けることができたため、継続していくことで、児童生徒の学習活動を支援していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				



基本目標Ⅳ 家庭・地域の教育力の向上

Ⅳ-1

施策名		家庭の教育力の向上		点検評価表 作成課		生涯学習スポーツ振興課		
施策の方向性		○家庭教育の大切さや子どもたちが基本的な生活習慣を身に付けるための啓発活動を推進します。 ○親として育ち、家庭での教育力を付けるための学習を推進します。						
施策に関連する 主な取組		○家庭教育学級の充実						
		○「親の学習」講座の推進						
		○家庭教育だより「まごころ」の発行						
指標名		新中学1年生の保護者に対する「親の学習」講座実施件数						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	中学生になる小学6年生の保護者に向けて、「親の学習」講座を実施した件数(小学校の就学時健診において、新小学1年生の保護者に対しては既に実施済)	0回 (0校)	2回 (2校)	3回 (3校)	4回 (4校)			
		現状値 (平成23年度)		未実施		→		目標値 (平成29年度)

平成26年度 重点施策	○家庭教育学級事業 ○家庭教育事業	
平成26年度 実績	○家庭教育学級の充実 ・深谷市内の全12公民館において、家庭教育学級を実施した。 ・家庭教育学級の実施にあたり、社会教育指導員と内容を検討し、家庭教育アドバイザーも活用した。 ○「親の学習」講座の推進 ・深谷市内全19小学校において、就学時に保護者を対象に「親の学習」講座を実施した。 ・上柴、幡羅、明戸、藤沢の4中学校の保護者を対象に「親の学習」講座を実施した。 ○家庭教育だより「まごころ」の発行 ・年3回発行した。(計55, 200部)	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・中学校での「親の学習」講座は、平成24年度から始めて着実に増えているが、平成29年度までには、市内全10中学校で実施していきたい。	
評価コメント	・家庭教育学級は、参加者の減少は見られたが、各公民館ごとに計画的に実施することができた。 ・「親の学習」講座の実施回数は、前年度よりも増加した。 ・家庭教育だより「まごころ」は、年3回発行できた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・家庭の教育の向上の取組については、保護者に講座に参加してもらう必要があるなどハードルの高い部分もあるが、このまま進めてほしい。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	家庭教育学級事業	担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	家庭教育学級の内容等を公民館と検討し、実施する。		
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> 市内全12公民館において、家庭教育学級を実施した。 家庭教育学級の実施にあたり、社会教育指導員と内容を検討し、家庭教育アドバイザーも活用した。 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	家庭教育学級の実施回数	33回	前年度(29回)より実施回数は増加している。
	家庭教育学級の参加者数	2,353人	実施回数の増加により参加者数も前年度より増加している。
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	1	回数や参加人数のバラツキはあるが、市内すべての公民館で実施できている。実施回数も増加しており、各公民館が社会教育指導員と相談しながら計画的に事業を行うことができています。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

重点施策名	家庭教育事業	担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	「親の学習」講座を、新小学校1年生の保護者を対象に、小学校就学時健診時に実施する。新中学1年生の保護者に対し、全中学校で実施できるよう時期・内容等を検討する。		
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> 「親の学習」講座の実施(市内19小学校) 「親の学習」講座の実施(市内4中学校) 家庭教育だより「まごころ」を年3回発行 		
	指標名	実績値	指標別コメント
	「親の学習」講座の実施回数	23回	「親の学習」講座を全19小学校及び4中学校で実施した。
	「親の学習」講座の参加者数	1,483人	「親の学習」講座の参加者数は前年度よりも減少している。
「まごころ」年間発行部数	55,200部	「まごころ」は年3回発行することができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント	
	3	小学校の保護者を対象とした「親の学習」講座は市内全19校で実施できた。中学校の保護者を対象とした「親の学習」講座は4校で実施したが、全中学校で実施できるよう進めていきたい。	
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)			

基本目標Ⅳ 家庭・地域の教育力の向上

Ⅳ-2

施策名		地域の教育力の向上		点検評価表		生涯学習スポーツ振興課		
作成課								
施策の方向性		○子どもたちの居場所づくりや学習支援などを行う環境を整備するにあたり、地域住民の積極的な参加を促進します。 ○ボランティア意識の高揚を図り、社会参加活動や青少年健全育成の取組を促進します。						
施策に関連する主な取組		○世代間交流事業の推進			○ボランティア活動の促進			
		○放課後子ども教室の推進			○青少年健全育成活動の促進			
		○学校応援団の推進						
		○学校教育・社会教育の連携						
指標名		「がんばル〜ム」に参加した児童の満足度						
成果指標	指標の説明	平成23年度実績値	平成24年度実績値	平成25年度実績値	平成26年度実績値	平成27年度実績値	平成28年度実績値	平成29年度実績値
	参加児童に対しアンケートを行い、児童が「満足した」と回答した割合	66.8%	73.7%	94.5%	95.1%			
		現状値 (平成23年度)		66.8%	→	目標値 (平成29年度)		95%
平成26年度重点施策	○学校応援団推進事業の充実 ○ボランティア活動推進事業							
平成26年度実績	○世代間交流事業の推進 ・市内全12公民館で各種学級講座等を開催し、前年度よりも参加者が増加した。 ○放課後子ども教室の推進 ・がんばル〜ムを市内全19小学校で実施した。 ○学校応援団の推進 ・学校支援者補償制度に加入し、安心して学校応援活動を行うことができた。 【主な取組内容】授業の補助、登下校の安全管理、部活動の指導、図書の整理や読み聞かせ、校内の環境整備、学校行事の運営支援など ・各小・中学校における活動費用の補助を行った。 ○学校教育・社会教育の連携 ・小・中学校において「親の学習」を開催した。 ○ボランティア活動の促進 ・ふかや市民大学連絡協議会へボランティア情報を提供した。 ・市民大学の講座で、「学校支援ボランティア講座」を実施した。							
総合評価	A	※総合評価の目安 S: 計画以上に進んでいる A: ほぼ計画通りに進んでいる B: あまり進んでいない C: まったく進んでいない						
課題	・がんばル〜ムについては、学習だけではなく、-halfタイムにダンス等の運動を試験的に2校で実施したが、参加児童からは好評であったため、深谷市内の全校で実施できるようにしたい。							
評価コメント	・成果指標であるがんばル〜ムの参加児童の満足度は、前年より0.6ポイント向上し、目標値を上回った。 ・各公民館にて各種学級講座及び世代間交流事業を実施することができた。 ・市民大学でのボランティア講座の実施や情報提供等により、ボランティア活動を促進することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							
意見・提言	・ふかや市民大学連絡協議会へのボランティア情報の提供は、今後ボランティアを募集する際に協力が期待できる取組であり、非常に評価できる。							

重点施策評価表

重点施策名	学校応援団推進事業の充実		担当課	学校教育課
概要	学校、家庭、地域が一体となった教育(市民との協働)を推進し、学校や地域の教育力を高める。			
平成26年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・各小・中学校に学校応援コーディネーターが配置され、学校支援活動が行われていた。 ・学校応援団を対象とした傷害保険に加入し、地域のボランティアによる学習支援、登下校の安心・安全の確保、環境整備、中学校における部活動補助等の学校支援活動を安心して進めることができた。 ・支援活動日数(のべ日数)も目標値の5,800日(29校×200日:学校応援団の活動が市内全小・中学校で毎日行われることを想定)を上回り、6,740日の支援活動が行われた。同一日に、複数の支援活動が行われていることが分かる。 ・各小・中学校における活動費用(消耗品の購入等)の補助を受けられたことで、各小・中学校の学校応援団の活動を円滑に行うことができた。 			
		指標名	実績値	指標別コメント
	学校応援コーディネーターの配置状況	100% (29校/29校)	市内全小・中学校に学校応援コーディネーターが配置された。	
学校応援団活動の支援活動目標日数に対する実際の支援活動日数の割合	116.2% (6,740日/5,800日)	学校応援団の活動が市内全小・中学校で毎日行われることを想定し、29校×200日=5,800日を目標値とする。小学校では児童の登下校の安心・安全に係る支援、中学校では部活動における支援が多かった。		
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	学校応援コーディネーターを中心に、学校支援活動が行われた。今後は更に地域が学校を応援する体制を拡充する。また、市民協働の観点から、学校応援団推進連絡協議会を設置し、活動実践事例や人材の共有、組織の整備等について協議する。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	ボランティア活動推進事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	市民大学の各期卒業生で構成する、ふかや市民大学連絡協議会へボランティア情報を提供し、市の各種ボランティアに参加してもらう。また、自発的にボランティア事業の立案をしてもらうよう市の取り組みをPRする。			
平成26年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ふかや市民大学連絡協議会へボランティア情報を提供した。 ・市民大学の講座で、「学校支援ボランティア講座」を実施した。 			
		指標名	実績値	指標別コメント
	ボランティア情報提供件数	16件	市内へ照会し、各種ボランティア情報をふかや市民大学連絡協議会へ提供できた。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	ふかや市民大学連絡協議会へ各種ボランティア情報の提供をすることにより、市が行う様々なイベントに対し、ボランティアとして協力いただける体制を築けている。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標Ⅴ 生涯を通じた学習活動の推進

V-1

施策名		学習機会の提供と学習活動の支援		点検評価表 作成課		生涯学習スポーツ振興課		
施策の方向性		○学習情報の提供、指導者の育成や確保など、生涯学習を推進するための体制を整備します。 ○多様化する学習ニーズに対応できるよう、講座・教室等の充実を図ります。						
施策に関連する 主な取組		○生涯学習推進体制の整備・充実			○市民大学の推進			
		○指導者の育成・確保			○子ども体験学習の推進			
		○学習情報の収集と提供			○放課後子ども教室の推進(再掲)			
		○講座・教室の充実						
指標名		「ふかや市民大学」の満足度						
成果 指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	受講生に対しアンケートを行い、 受講生が講座全体に関して「満足した」と回答した割合	93.7%	98.0%	98.0%	98.0%			
		現状値 (平成23年度)		93%	➡	目標値 (平成29年度)		95%

平成26年度 重点施策	○市民大学運営事業	
平成26年度 実績	○指導者の育成・確保 ・親の学習等の講師として、家庭教育アドバイザーを活用した。 ○講座・教室の充実 ・パソコン講習会を深谷・上柴公民館において開催した。また、各公民館において各種講座を実施した。 ○市民大学の推進 ・市民大学を開催し、全20回講座を実施した。各班活動も実施し、成果発表することができた。 ・市民大学運営委員会による市民大学講座の見直しを行い、次年度にむけた講座の計画を立てることができた。 ○子ども体験学習の推進 ・親子体験教室(藍染体験教室)を開催した。 ・子ども体験教室(ペットボトルロケット教室)を開催した。 ○放課後子ども教室の推進(再掲) ・がんばル〜ムを市内全19小学校で実施した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・市民大学の講座については、3年ごとの大幅な改正を控えているため、運営委員会においてしっかりと協議を行いたい。 ・子ども体験学習については類似の教室もあり、事業の実施方法について検討が必要である。	
評価コメント	・市民大学の応募者数が定員を上回った。また、成果指標である満足した受講者の割合も高い数値を継続できた。 ・各種子ども体験学習教室を開催し、学校や家庭では得られない様々な体験の活動機会を提供することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	
意見・提言	・ふかや市民大学の卒業生に対するボランティア情報の提供等、卒業生の社会参加の支援は、素晴らしい取組なので、継続して進めてほしい。 ・子ども体験学習は、現代の子ども達に不足しがちな様々な体験を提供し、心を豊かにする取組なので、今後も継続してほしい。	

重点施策評価表

重点施策名	市民大学運営事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	深谷公民館を中心に市内公共施設において、月2回を原則に全20回講座を実施します。			
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> 市民大学の開催(全20回講座の実施) 市民大学運営委員会の開催 市民大学講座の他に班活動を実施 			
	指標名		実績値	指標別コメント
	市民大学講座回数		20回	全20回すべての講座を実施することができた。
	市民大学応募者数		107人	募集人員(80名)を大幅に上回る応募があった。
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	市民大学運営委員による講座の見直しを行い、次年度に向けた講座の計画を立てることができた。今後は市民大学卒業生に対するボランティア情報の提供等、卒業生の社会参加の支援を行っていきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標V 生涯を通じた学習活動の推進

V-2

施策名		活動施設の整備・充実					点検評価表 作成課		生涯学習スポーツ振興課	
施策の方向性		○生涯学習活動施設の整備・充実を図ります。 ○生涯学習活動施設の利用方法の改善を図ります。								
施策に関連する 主な取組		○公民館の整備・充実								
指標名		公民館利用者数								
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値		
	市内12公民館の年間利用者数	526,157名	518,570名	513,817名	529,772名					
		現状値 (平成22年度)		523,505名	➡	目標値 (平成29年度)		530,000名		
平成26年度 重点施策	○公民館施設整備維持事業 ○公民館体育室天井の調査									
平成26年度 実績	○公民館の整備・充実 ・利用者の安全、利便性を確保するため各公民館において各種修繕を講じた。 ・公民館の体育室における吊り天井の安全性を確認するため、幡羅公民館、大寄公民館、豊里公民館の3館を対象に「非構造部材耐震点検調査業務委託」を実施した。 ・公民館施設整備維持事業については、計画どおり旧花園公民館を解体し、駐車場を整備した。									
総合評価	A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない							
課題	・非構造部材耐震点検調査を実施した3公民館については、体育室の安全性を確保するため今後吊り天井の撤去工事を行う必要がある。									
評価コメント	・各公民館においては、各種修繕を適正に行うことができた。 ・幡羅、大寄、豊里の3公民館について、体育室の吊り天井に係る調査を実施することができた。 ・成果指標である市内12公民館の年間利用者数は、前年度より増加し、目標値に近づいている。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。									
意見・提言	・生涯学習活動施設の整備は、計画的に着実に進んでおり、評価できる。 ・新電力会社から電気を購入することで公民館の電気代を削減することができており、素晴らしい。									

重点施策評価表

重点施策名	公民館施設整備維持事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	公民館の施設の安全性を確保し、利便性の向上を図るため、市内公民館の施設の整備や保守、維持管理、修繕を計画的に実施する。			
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> 各公民館において修繕等を実施した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	公民館の修繕実施件数	116件	施設の維持管理のため、適正な修繕が実施できた。	
	新電力会社と契約している公民館数	11公民館	新電力会社から電気を購入することで電気代の削減が図れている。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	各公民館の利用状況については、稼働率は前年と比較すると低くなったが、利用件数及び利用者数は前年度を上回った。利用者の安全の確保、利便性を保つため適正な修繕が実施できた。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	公民館体育室天井の調査		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	利用者の安全確保のため、吊り天井となっている3公民館(幡羅、大寄、豊里)の体育室の天井の状況を調査する。			
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> 幡羅公民館体育室吊り天井の調査 大寄公民館体育室吊り天井の調査 豊里公民館体育室吊り天井の調査 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	幡羅公民館体育室吊り天井調査	1回	公民館体育室非構造部材耐震点検を業務委託にて行い、吊り天井の状況を確認した。	
	大寄公民館体育室吊り天井調査	1回	公民館体育室非構造部材耐震点検を業務委託にて行い、吊り天井の状況を確認した。	
	豊里公民館体育室吊り天井調査	1回	公民館体育室非構造部材耐震点検を業務委託にて行い、吊り天井の状況を確認した。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	4	本年度の点検に基づき、次年度以降各公民館の吊り天井撤去のため設計、工事を行うため調査については終了とする。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		図書館の整備・充実		点検評価表 作成課	図書館			
成果指標	施策の方向性	○利用者の多様なニーズに配慮しながら、図書館資料を収集、整備、保存し、蔵書の充実を図ります。 ○施設設備の老朽化による不具合を修繕するなど利用者にとって快適な環境づくりを進めます。 ○貸出し処理等の迅速化を図るなど利用者へのサービスを充実させ、利用者の拡大に努めます。						
	施策に関連する主な取組	○図書館資料の整備・充実 ○利用者へのサービスの充実 ○読書活動の促進 ○利用者の利便性向上のための施設設備の充実						
	指標名	資料貸出点数						
	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
図書館4館の年間貸出点数の合計 (資料とは、図書資料、視聴覚資料、雑誌の総合計とする。1年度3,000点の増とする)	712,427点	694,783点	658,686点	595,227点				
	現状値 (平成22年度)		690,105点	→		目標値 (平成29年度)		708,000点
平成26年度 重点施策	○図書館、学校、民間団体等の連携の推進							
平成26年度 実績	○図書館資料の整備・充実 ・一般書から児童書まで、人気のある本や利用者からの要望の高かった本を購入する一方、図鑑、事典など、最新の知見が掲載された基本図書も継続的に購入を進め、全体的にバランスの取れた図書購入を図った。 ・DVD機器の一般家庭への普及に対応し、人気の高い視聴覚資料のビデオテープからDVDディスクへの移行を進め、利用者の継続的な利用に対応した。 ・図書資料購入予算が増額されたことに伴い、これまで予算の関係から、買い替えが進められなかった児童書を中心とする損耗の著しい図書や、貸出実績の低下している過去の人気本の複本などの除籍を積極的に行い、所蔵図書の「若返り」とともに、新しい本の購入に備えた収蔵環境の向上に努めた。							
	○利用者へのサービスの充実 ・平成25年度より平成27年度の3ヶ年度契約にて窓口業務の民間委託を継続し、窓口業務に当たる業務員に司書資格保持者を増員するなど、より専門性の高い利用者からの要望にも応えられる体制を整えた。 ・9月16日～11月17日の間は深谷館の空調設備の更新工事を行ったため、安全管理上の問題から一般利用者の館内利用を中止せざるを得なかったが、玄関風除け室内に仮窓口を設置し、資料の予約、貸出し及び返却、新規購入図書の掲出と貸出しを行い、利用者の不便を可能な限り軽減する措置を講じた。 ・埼玉工業大学図書館との協力体制をとることを合意、深谷市民への大学図書館開放の周知とともに、図書館ホームページに大学図書館とのリンクを設定した。							
○読書活動の促進 ・「子ども読書活動推進協議会(以下協議会)」を設置し、その承認を得ながら市内教育機関(公立保育園・幼稚園、小学校、中学校)における読書活動の実態調査結果及び各教育機関から寄せられた質疑応答を集成し、子どもたちの読書活動に関する基本資料を作成した。 ・協議会の承認を得ながら、市内小学校2年生及び5年生、中学校2年生について読書活動に関するアンケート調査(学校の抽出形式)を行い、調査結果について図書館ホームページにて公開した。 ・市内図書館4館の共通事業である「ブックスタート」「おはなし会」「えいが会」など、乳幼児～小児対象の事業とともに、「読み聞かせボランティアステップアップ講座実技実習編」「読書講演会」「古典文学講座」などの専門性・趣味性の高い講座や「夏季企画展」「文学歴史散歩」など、従来からの図書館利用者以外でも参加しやすい事業を展開した。								
○利用者の利便性向上のための施設設備の充実 ・深谷館、川本館、花園館に設置された空調機器の不調箇所の修繕を行った。特に深谷館については経年劣化により、空調効率の低下や作動時の騒音が著しかったため、抜本的な設備更新工事を行った。 ・深谷館の防災設備および防火設備の修繕を行い、利用者の安全環境の維持に努めた。 ・多目的トイレ(障がい者、高齢者、乳幼児対応)扉部分の抜本的な修繕を行い、使用者の利用環境の向上に努めた。								
総合評価	A		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない					
課題	・図書館と市内小・中学校との連携度を高めるため、子ども読書推進協議会とは別に、各学校図書館担当者との連絡協議の場を設けるべく調査検討を進めていきたい。 ・館内の新規図書資料収蔵環境が整いつつあるので、計画的な資料購入を更に進めていきたい。 ・年間貸出点数が増加するよう、利用者のニーズに沿った資料選定を進めていきたい。							
評価コメント	・子ども読書推進協議会を発足し、市内公立保育園、幼稚園、小・中学校における読書活動の実態調査と、これまで情報共有のなかった各機関同士の活動に関する質疑応答を取りまとめ、活動基本資料として市内公立教育機関(保育園、幼稚園、小・中学校)に配布することができた。関係機関で基礎情報が共有できるようになった点は大きい。 ・今年度は空調工事実施という特殊事情のため、資料貸出件数が大きく減少したが、全体的な減少傾向は続いているものと考えている。図書館利用者の要望に沿った資料整備とともに、埼玉工業大学図書館との情報交換などにより、利用の最も少ないヤングアダルト世代の開拓方法を探っていきたい。 ・図書館主催事業は総じて好評を得ているが、特に乳幼児～小児を対象としたよみかせ事業などはリピーターの定着とともに参加者の増加が認められる。これらの事業を図書資料との出会いの窓口として、子どもたちのみならず、保護者も含めた形で図書館利用者の開拓を進めていきたい。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。							
意見・提言	・埼玉工業大学と協力体制を構築し大学図書館の開放を実現したり、子ども達が読書活動に親しむための各種イベントを開催するなど、限られた予算のなかで努力していると評価できる。 ・県立高校など様々な機関との連携を検討してほしい。							

重点施策評価表

重点施策名	図書館、学校、民間団体等の連携の推進		担当課	図書館
概要	「深谷市子ども読書活動推進計画」に基づき、図書館、小・中学校、読書活動団体との連携を進めます。			
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・深谷市子ども読書活動推進協議会(以下協議会)を設置した。 ・協議会の承認のもと、市内全ての公立教育機関(幼稚園・保育園・小学校・中学校)長の協力を得て、各機関の図書教育担当者から読書活動の実態に関する調査を聴取するとともに普段交流の少ない機関同士の質疑応答を行い、それぞれの調査結果を集成のうえ、各機関に基本資料として配布した。 ・協議会の承認のもと、市内小・中学校(各6校)の協力を得て、小・中学校の読書活動に関するアンケート調査を実施し、調査結果を図書館HP上にて公開した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	ブックスタート(絵本の読み聞かせと紹介)参加人数	1,026組	保健センターの協力を得て、4ヶ月健診時に実施。保護者に乳幼児期からの読書の重要性を伝えるとともに、読み聞かせに対するわが子の反応を確かめてもらう貴重な機会となっている。	
	おはなし会(えいが会を含む)参加人数	1,801人	参加する母子ともに好評を得ている。利用者の要望にはきめ細かく対応しながら、よりよい内容で事業を推進していきたい。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	1	ブックスタート、おはなし会事業など従来事業のより一層の充実を図るとともに、市内教育機関(公立幼稚園・保育園、小学校、中学校)との読書活動に関する情報共有を図り、子どもたちの読書活動を見守るための連携体制を構築していきたい。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		渋沢栄一翁の顕彰					点検評価表 作成課		文化振興課		
施策の方向性		○渋沢栄一翁の顕彰のために資料の収集や調査・研究を行い、その成果を市内外に発信します。 ○「渋沢栄一翁ゆかりの史跡」を整備し、その活用を推進します。									
施策に関連する 主な取組		○渋沢栄一翁に関する情報の収集と発信									
		○渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用									
指標名		渋沢栄一ゆかりの施設見学者数									
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値			
	1年間における誠之堂・清風亭 及び中の家の見学者の合計	18,120名	15,421名	16,331名	30,420名						
		現状値 (平成22年度)		15,000名		➡		目標値 (平成29年度)		18,000名	

平成26年度 重点施策	○渋沢栄一翁と論語の里整備活用事業	
平成26年度 実績	○渋沢栄一翁に関する情報の収集と発信 ・「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録を祝し、三偉人のPRも兼ねたイベントを実施した。 ・栄一塾や史跡めぐりを行い、渋沢栄一翁が考え実践した思想や実績について周知することができた。 ・市ホームページ内の渋沢栄一ミュージアムに新規コンテンツを設置し、情報発信に努めた。 ・講演会やパネル展示を行い顕彰を行った。	
	○渋沢栄一翁ゆかりの史跡の整備と活用 ・「渋沢栄一翁と論語の里整備活用計画」に基づき、尾高惇忠生家の歴史調査や施設の誘導看板、案内板の設置工事を行った。 ・歴史ボランティア養成講座を実施した。(7回開催31人受講) ・尾高惇忠生家で6月からガイドボランティアを開始した。 ・富岡製糸場の世界遺産登録により、誠之堂・清風亭・中の家等の見学者が増加した。	
総合評価	B	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	・継続的に顕彰を行うために新たな方法や研究を深め、新しい情報を発信し事業を行っていくことが重要である。 ・今後もゆかりの施設を活用し顕彰事業を進めるためには、各施設の改修整備が必要である。	
評価コメント	・各施設への案内標識の整備や市民協働の歴史ボランティア養成などの受け入れ態勢の充実を図ることができた。 ・富岡製糸場の世界遺産登録により、渋沢栄一、尾高惇忠、荏塚直次郎など深谷出身の偉人たちについて認知度も高まったが、施設等の改修、駐車場の整備など、まだ多くの課題がある。 ・以上のことから、総合評価は「B」とする。	

意見・提言	・富岡製糸場の世界遺産登録の影響もあるが、成果指標である誠之堂・清風亭等の見学者数が3万人を超えており、評価できる。 ・渋沢栄一、尾高惇忠、荏塚直次郎関連の施設等の改修、駐車場の整備などを積極的に進めてほしい。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	渋沢栄一翁と論語の里整備活用事業		担当課	文化振興課
概要	「渋沢栄一翁と論語の里」整備活用計画に基づき、渋沢栄一関連施設の改修整備を行う。また、偉人たちの遺徳の顕彰を目的に、イベントや講座を実施し、歴史ボランティアの育成にも取り組んでいくものである。			
平成26年度の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・富岡製糸場の世界遺産登録に合わせたイベントを実施し、郷土の偉人たちのPRに努めた。 ・世界遺産との関連や論語の里関連のパンフレットを新規に作成した。 ・回遊性の向上のため、案内看板設置工事を行った。 ・尾高惇忠生家の歴史調査を行った。 ・歴史ボランティア養成講座を実施し、ガイドの育成を行った。 ・6月から尾高惇忠生家にガイドボランティアを配置した。 			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	1年間における誠之堂・清風亭及び中の家の見学者の合計	30,420名	前年度より大幅に増加した。	
	歴史ボランティア養成講座の実施回数	7回	計画どおり実施することができた。	
	歴史ボランティア養成講座の受講者数	31名	講座終了後、受講者は、尾高惇忠生家のガイドボランティアとして活動した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	3	「渋沢栄一翁と論語の里」整備活用計画に基づき、改修整備について、調査、設計、改修を実施していく必要がある。また、郷土の偉人顕彰や人材の育成を図り「歴史・文化を活かしたまちづくり」に取り組んでいくことが必要である。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

基本目標VI 深谷らしい文化の創造

VI-2

施策名		伝統文化の保存・継承と活用						点検評価表 作成課	文化振興課
施策の方向性		○文化財の調査・記録化を実施するとともに、指定を通じ、保存のための措置を講じます。 ○各種イベントの開催を通じて、文化財を活用しながら、市内の伝統文化のすばらしさを伝えていきます。							
施策に関連する 主な取組		○文化財の調査、保護、管理と活用				○文化財保護思想の高揚			
		○埋蔵文化財の保護、保存							
		○民俗芸能の保存と継承							
		○文化財施設の整備・活用							
指標名		普及公開事業数							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値	
	市内で行う講演会、展覧会の年間開催数	10回	11回	9回	15回				
		現状値 (平成23年度)		10回	→	目標値 (平成29年度)		12回	

平成26年度 重点施策	○日本煉瓦保存活用計画策定事業
------------------------	-----------------

平成26年度 実績	<ul style="list-style-type: none"> ○文化財の調査、保護、管理と活用 <ul style="list-style-type: none"> ・古文書の調査を行った。 ・歴史調査を行った。 ○埋蔵文化財の保護、保存 <ul style="list-style-type: none"> ・各種開発に伴い、埋蔵文化財確認調査・発掘調査を行った。 ・保存目的の発掘調査を行った。 ○民俗芸能の保存と継承 <ul style="list-style-type: none"> ・無形民俗文化財の記録保存を行った。 ○文化財施設の整備・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・川本出土文化財センターにて企画展を行った。 ・旧煉瓦製造施設の臨時公開を行った。 ・旧煉瓦製造施設の保存活用計画を策定した。 ○郷土の歴史への関心や文化財保護思想の高揚 <ul style="list-style-type: none"> ・郷土の歴史や文化財に関する講演会・展覧会を開催した。
----------------------	---

総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
-------------	----------	---

課題	開発協議を経て発掘調査から報告書刊行までを円滑に行う環境を整えて維持していくこと、旧煉瓦製造施設の修理工事等を行っていくこと、幡羅遺跡の保存・活用の検討が大きな課題である。
-----------	--

評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・開発に伴う確認調査、発掘調査等はほぼ円滑に対応できた。 ・成果指標である講演会や展覧会の開催数は、目標値を超える回数を開催することができ、多数の参加者があった。 ・文化財施設の公開や旧煉瓦製造施設の臨時公開、企画展等の文化財を身近に感じられる事業を開催できた。 ・検討委員会での審議を経て、日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設保存活用計画を策定することができた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。
---------------	---

意見・提言	・旧煉瓦製造施設は、深谷に存在する富岡製糸場の関係施設のなかでも一番目立つ建築物なので、難しい部分もあると思うが、整備を進めて、ホフマン輪窯の奥の部分まで見学できるようにしてほしい。
--------------	---

重点施策評価表

重点施策名	日本煉瓦保存活用計画策定事業		担当課	文化振興課
概要	重要文化財である旧煉瓦製造施設の保存・活用の基本方針をまとめ、これに必要な維持管理や修理、改修等を行うために、あらかじめ文化財としての価値を有する部分や、活用に資するために改変可能な範囲等を明確にした保存活用計画を策定する。			
平成26年度 の実績	<p>○平成25年度に引き続き検討委員会を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回検討委員会(8月) ・第4回検討委員会(12月) ・第5回検討委員会(3月) <p>○日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設保存活用計画を策定した。</p>			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設保存活用計画等検討委員会の開催回数	3回	検討委員会を開催し、予定していた内容を検討することができた。	
担当課 評価	評価区分	評価コメント		
	4	平成27年度以降は、策定した保存計画をもとに、調査工事と引き続いて修理工事を行っていく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名	文化・芸術活動の活性化		点検評価表 作成課	文化振興課				
施策の方向性	○多様な文化・芸術に触れることができる機会を拡充します。 ○文化団体等の自主的な活動の支援・育成を行います。 ○市にゆかりある美術品の収蔵と展示公開を進めます。 ○地域ゆかりの文化資源の活用を図ります。							
施策に関連する 主な取組	○文化・芸術活動の推進			○地域ゆかりの文化資源の活用				
	○地域における文化活動の連携と推進							
	○文化団体の育成							
	○美術品の収蔵・展示公開							
指標名	文化・芸術事業の参加者アンケートにおける事業の満足度							
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	深谷市文化会館で開催するコンサート等の観客からアンケートを行い、「良い」と回答した割合	80%	97%	88%	94%			
		現状値 (平成23年度)		80%	→	目標値 (平成29年度)		85%以上

平成26年度 重点施策	○子ども芸術文化推進事業 ○地域ゆかりの偉人発掘	
平成26年度 実績	○文化・芸術活動の推進 ・アーティスト倶楽部を開催し、子どもたちが、美術・音楽・演劇などの様々な芸術や文化活動に触れる機会を設けることができた。 ・文化芸術による子ども育成事業を開催し、良質な文化・芸術に触れることができた。 ○地域における文化活動の連携と推進 ・深谷市美術家協会と連携し、深谷市美術展入賞作品展を開催した。 ・NPOと協働し、優秀映画鑑賞推進事業を開催した。 ○文化団体の育成 ・深谷市文化団体連合会に補助金を交付し、文化・芸術活動の活性化を図った。 ○美術品の収蔵・展示公開 ・特別展示として「埼玉県立近代美術館コレクション展」を開催した。 ○地域ゆかりの文化資源の活用 ・埼玉県指定有形文化財に指定されている清風亭で、文化遺産コンサートを開催した。 ・「深谷市にゆかりのある人々PartⅢこのひとをしっていますか？」と題し、今では語られる機会は少ないが重要な活躍をした人たちの展示会を開催した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	より優れた文化・芸術事業の提供を行うため、多様で良質な文化・芸術事業の企画が必要である。	
評価コメント	・特別展示として県立近代美術館所蔵の著名な美術作品を展示し、良質な文化・芸術を提供できた。 ・企画展において市内文化団体と協働し、地域の文化を展示紹介できた。 ・子どもたちに対してミュージアムツアーや音楽ワークショップなどを行い、良質な文化・芸術に触れる機会を提供でき、参加者の満足度も高かった。 ・清風亭で文化遺産コンサートを開催し、参加者の満足度の高いイベントを提供できた。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	
意見・提言	・成果指標であるコンサート等の観客がアンケートに「良い」と回答した割合が94%と高く、非常に評価できる。 ・今後は、イベントの目標集客数に対する達成率なども意識して取り組んでほしい。 ・地域ゆかりの偉人は子ども達の精神的な遺産になるので、企画展「深谷市にゆかりのある人々」は、今後もしっかりやってほしい。	

重点施策評価表

重点施策名	子ども芸術文化推進事業		担当課	文化振興課
概要	「なぜ」を追求する、ふるさとのことを深く知る、より良く生きるの3分野について「子ども大学ふかや」を実施する。また、「アーティスト倶楽部」を開催し、子どもたちが美術・音楽・演劇などのさまざまな芸術や文化に触れ、実際に体験することで創造性を豊かにし、柔軟な発想を育む機会を提供する。			
平成26年度の実績	・小学生を対象にした「子ども大学ふかや」や、小・中学生を対象にした「アーティスト倶楽部」を開催し、文化・芸術に触れる機会を提供した。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	子ども大学の参加者数	313人	前年度より参加者数は増加した。	
	アーティスト倶楽部の実施回数	5回	例年並みに実施した。	
	アーティスト倶楽部の参加者数	124人	前年度より参加者数は減少した。	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	1	市内文化団体や大学などと連携し活発な活動ができた。より効果の高い事業内容で実施できるよう検討していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

重点施策名	地域ゆかりの偉人発掘		担当課	文化振興課
概要	深谷市にゆかりのある人を発掘・紹介し、より多くの人たちに知ってもらうことを目的に展示等を実施する。			
平成26年度の実績	・企画展示「深谷市にゆかりのある人々PartⅢこのひとをしっていますか？」を深谷市立図書館と共催した。企画展終了後は、デジタルミュージアムに掲載した。			
	指標名	実績値	指標別コメント	
	企画展の来場者数	575人	来場者数は前年度より減少した。	
	展示に取り上げた人物の数	7人	H24年度6人、H25年度6人	
担当課評価	評価区分	評価コメント		
	2	市民文化団体や地域の人を通じゆかりのある人を掘りおこし、市民に紹介できた。企画展後はデジタルミュージアムに掲載した。今後はデジタルミュージアムを効果的に活用できるように検討していく。		
評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)				

施策名		スポーツ・レクリエーション活動の環境整備						点検評価表 作成課		生涯学習スポーツ振興課	
施策の方向性		○利用者が安全かつ快適に利用できるよう、より一層の充実した管理・運営を行っていきます。 ○指導者の育成を通じ、スポーツ・レクリエーション活動に、市民が積極的に取り組めるような環境を整備します。									
施策に関連する主な取組		○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し ○指導者の養成									
指標名		社会体育施設における利用者数									
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値			
	深谷市総合体育館、市民体育館、岡部B&G海洋センター(体育館)及び市営グラウンドの年間利用者数	343,112名	366,840名	357,664名	418,568名						
		現状値 (平成22年度)		374,462名		➡		目標値 (平成29年度)		380,000名	
平成26年度重点施策	○市営グラウンド・市民体育館の巡視、点検の強化										
平成26年度実績	○スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実と利用方法の見直し 【整備・改修等】 ・総合体育館(避雷設備改修) ・市民体育館(防水修繕) ・B&G(駐輪場撤去、防水修繕) ・市営グラウンド(トイレ修繕(植松)、トイレ外灯修繕(川本GG)、芝刈り機修繕(川本GG)、照明自動点灯盤改修(天神)、浄化槽修繕(岡部中央)、漏水修繕(岡部中央)、駐車場修繕(上本田)ほか) 【利用者】 ・平成26年度利用者実績 418,568名(H25実績 357,664名) 前年比60,904名増 (総合体育館:288,884名、市民体育館:42,907名、B&G:15,835名、市営グラウンド70,942名) ○指導者の養成 ・スポーツ少年団認定員研修会 45名 ・スポーツ少年団認定員指導者講習会 120名										
総合評価	S		※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない								
課題	経年による施設の老朽化が進んでおり、毎年いずれかの施設に大規模な改修を要する状況となっている。										
評価コメント	・施設の修繕箇所数は年々増加傾向にあるが、限られた予算のなかで適切に対応できた。 ・安全な施設管理と適切な施設整備により、利用者の事故を未然に防止することができた。 ・成果指標である年間利用者数は大幅に増えており、市民が積極的にスポーツ・レクリエーション活動に取り組める環境の整備を進めることができた。 ・以上のことから、総合評価は「S」とする。										
意見・提言	・成果指標である深谷市総合体育館等の年間利用者数は、適切な施設管理による事故の未然防止などにより、非常に増加しており、評価できる。										

重点施策評価表

重点施策名	市営グラウンド・市民体育館の巡視、点検の強化		担当課	生涯学習 スポーツ振興課
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・業務委託(シルバー人材センター)による毎月2回の全市営グラウンド(7箇所)の確認・清掃業務を実施 ・市職員による毎朝の市民体育館の点検・巡視の実施 			
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市営グラウンド確認管理業務委託(深谷市シルバー人材センター) 			
	指標名		実績値	指標別コメント
	市営グラウンド確認回数		24回	専属職員による確認管理業務のため、細部の状況が点検できた。
	職員による市民体育館の点検・巡視		勤務時毎日 (243回)	日々の変化が確認できたため、利用者の事故防止に繋がった。
担当課 評価	評価区分		評価コメント	
	1		業務委託による市営グラウンド(7箇所)の定期的な点検業務を実施することで、細部にわたる状況確認が出来た。また、毎朝の市職員による市民体育館の点検により、利用者の事故防止ができた。	
<small>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</small>				

施策名		スポーツ・レクリエーション活動の活性化		点検評価表 作成課		生涯学習スポーツ振興課		
施策の方向性		○スポーツ・レクリエーション団体やスポーツ推進委員を核に、本市の地域におけるスポーツ・レクリエーション活動を推進します。 ○多くの市民がスポーツ・レクリエーション大会・教室等へ参加するきっかけを作るため、情報の提供・周知を図ります。						
施策に関連する主な取組		○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ○スポーツ推進委員との連携の強化						
指標名		スポーツ・レクリエーション活動の活性化						
成果指標	指標の説明	平成23年度 実績値	平成24年度 実績値	平成25年度 実績値	平成26年度 実績値	平成27年度 実績値	平成28年度 実績値	平成29年度 実績値
	体育協会、レクリエーション協会及びスポーツ少年団並びに市が主催した大会・教室の年間参加者数	28,322名	30,688名	33,584名	27,464名			
		現状値 (平成22年度)		21,702名	➡	目標値 (平成29年度)		23,000名

平成26年度 重点施策	○スポーツ教室・イベント開催事業	
平成26年度 実績	○スポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実 ・第9回ふかやシティハーフマラソンは問題なく開催できた。しかし、県内でマラソン大会が同日に開催され、参加者が減少した。 ○スポーツ・レクリエーション団体の活動支援 ・体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団の加盟団体が主催する各種大会・教室等を広報やホームページで市民へ情報提供する支援を行った。 ○スポーツ推進委員との連携の強化 ・会合を定期的に設け委員との連絡調整を密にするとともに、軽スポーツ教室、ウォーキング教室、ランニング教室などを実施した。	
総合評価	A	※総合評価の目安 S:計画以上に進んでいる A:ほぼ計画通りに進んでいる B:あまり進んでいない C:まったく進んでいない
課題	多様化・高度化するスポーツ・レクリエーションへのニーズに応えるため、指導者を養成する必要がある。	
評価コメント	・第9回ふかやシティハーフマラソンが問題なく開催でき、各種大会や教室等についても充実させてきている。 ・成果指標である年間参加者数は、前年度と比較して減少しているが、目標値に対しては上回っている。 ・以上のことから、総合評価は「A」とする。	

意見・提言	・ふかやシティハーフマラソンは、一般道路で行っているにもかかわらず、事故もなく安全に運営できており、評価できる。
--------------	--

重点施策評価表

重点施策名	スポーツ教室・イベント開催事業		担当課	生涯学習 スポーツ振興課											
概要	市民が積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加する機会を提供し、生涯を通して健康的な生活を営むことを目的として、ふかやシティハーフマラソンを始めとする各種大会や教室開催支援を行う。														
平成26年度 の実績	<ul style="list-style-type: none"> ・第9回ふかやシティハーフマラソンエントリー 5,415名 ・体育協会(所属団体)主催大会 10,320名 ・レクリエーション協会(所属団体)主催大会 2,969名 ・スポーツ少年団(所属団体)主催大会 8,293名 ・軽スポーツ教室、ランニング教室、ウォーキング教室等 467名 														
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>実績値</th> <th>指標別コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団、各種教室、講習会の年間参加者数</td> <td>27,464名</td> <td>各種大会、教室等ともに参加人数が減少した。</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	指標名	実績値	指標別コメント	体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団、各種教室、講習会の年間参加者数	27,464名	各種大会、教室等ともに参加人数が減少した。								
	指標名	実績値	指標別コメント												
	体育協会、レクリエーション協会、スポーツ少年団、各種教室、講習会の年間参加者数	27,464名	各種大会、教室等ともに参加人数が減少した。												
担当課 評価	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>評価区分</th> <th>評価コメント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; font-size: 2em;">1</td> <td>第9回ふかやシティハーフマラソンは、県内マラソン大会の同日開催により、参加者が減少したと思われる。各種大会や教室等については、天候不順などの原因により減少した。</td> </tr> </tbody> </table>	評価区分	評価コメント	1	第9回ふかやシティハーフマラソンは、県内マラソン大会の同日開催により、参加者が減少したと思われる。各種大会や教室等については、天候不順などの原因により減少した。										
評価区分	評価コメント														
1	第9回ふかやシティハーフマラソンは、県内マラソン大会の同日開催により、参加者が減少したと思われる。各種大会や教室等については、天候不順などの原因により減少した。														
<small>評価区分の考え方 (1:現状継続 2:見直して継続 3:拡充・重点化 4:事業達成により終了 5:廃止を検討)</small>															

6 結びに

深谷市教育委員会では、本市教育行政の基本計画である深谷市教育振興基本計画に基づいて、教育行政を推進しています。

平成27年度の点検評価では、深谷市教育振興基本計画の25施策すべてを対象に、平成26年度に執行した各施策の点検評価を実施しました。

その結果、25施策中、2施策に対して総合評価「S」(計画以上に進んでいる)と、22施策に対して総合評価「A」(ほぼ計画通りに進んでいる)と評価することができましたが、1施策に対して総合評価「B」(あまり進んでいない)となりました。

今後も、社会情勢の変化を踏まえながら、深谷市教育振興基本計画に基づき、目標に向け着実に推進していくとともに、今回の点検評価で課題とされた点については事業の改善等を図っていきたいと考えています。また、教育行政の推進にあたっては、教育委員会と市民、地域及び関係機関が連携し、一体となった取組を推進していきたいと考えています。

最後に、今回の点検評価を行うにあたり、その客観性を確保する観点から、次の点検評価者にご意見及びご提言をいただきました。この場を借りましてお礼申し上げます。

倉上 武雄	深谷市社会教育委員
篠原 善廣	立正大学法学部非常勤講師

なお、施策ごとの総合評価及び点検評価者のご意見及びご提言の要旨を次のとおり一覧で示します。

施策名	総合 評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	頁
I－(1) 「生きる力」の基礎をはぐくむ幼児教育の推進	A	子育て広場の実施及び幼保一体化への着実な対応が評価されました。	4
I－(2) 未来を切り拓くための確かな学力の育成	A	小中一貫教育推進事業、深谷市チャレンジ及びこころざし深谷塾（国際塾・科学塾）の実施が評価されました。	6
I－(3) 郷土深谷を愛し、国際性をはぐくむ教育の推進	A	色々な数値が向上していることから施策全般について評価されました。外国語指導助手の積極的な活用について提言を受けました。	10
I－(4) 夢を育み、時代の進展に対応する教育の推進	A	情報教育環境の整備、各校のホームページの積極的な活用及び校務支援システムによる教職員の負担軽減の取組が評価されました。学校に求める報告書や調査の合理化について提言を受けました。	14
I－(5) 高い志をもつキャリア教育の推進	A	社会体験チャレンジの協力事業所の増加が評価されました。	16
I－(6) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進	A	通常学級に在籍する障害のある児童生徒の個別指導計画の作成及び特別支援学級への iPad の導入が評価されました。	20
II－(1) まごころと思いやりをはぐくむ教育の推進	A	「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」が地域に定着してきていること、まごころ訪問及び渋沢栄一こころざし読本の活用が評価されました。	24
II－(2) いじめ・不登校の防止	S	いじめ認知件数の減少及び「安心ふっかネット」の作成における中学校の生徒会長の積極的な取組が評価されました。	28
II－(3) 生徒指導の充実	A	児童生徒の暴力行為の発生件数の半減及び市独自のネットパトロールの取組が評価されました。	32
II－(4) 人権を尊重した教育の推進	A	非行防止教室への保護者の参加人数の増加及び児童虐待防止の取組が評価されました。人権教育研究の結果の活用について提言を受けました。	34
II－(5) 健康の保持増進	A	朝食を毎日必ず食べる児童生徒の割合が向上した点及び全小・中学校での薬物乱用防止教室の実施が評価されました。	38
II－(6) 体力の向上と学校体育活動の推進	A	新体力テストの結果における上位2ランクの児童生徒の割合が向上した点及び柔道の授業において怪我人が出なかった点が評価されました。	42

施策名	総合 評価	点検評価者の意見及び提言の要旨	頁
Ⅲ－（１） 信頼される教職員の育成	A	中堅・ベテランの教職員対象の研修の開始並びに教職員の研修参加人数及び教職員一人あたりの研修会参加回数が増加が評価されました。	44
Ⅲ－（２） 子どもたちの安心・安全の確保	A	緊急連絡サイトの着実な運用及びスクールガードの取組が評価されました。学校・近隣地域における防犯に関する情報の共有化について提言を受けました。	48
Ⅲ－（３） 学習環境の整備・充実	A	小・中学校、幼稚園へのエアコンの設置など教育環境の計画的な整備が評価されました。	50
Ⅳ－（１） 家庭の教育力の向上	A	家庭の教育の向上の取組が評価されました。	54
Ⅳ－（２） 地域の教育力の向上	A	ふかや市民大学連絡協議会へのボランティア情報の提供が評価されました。	56
Ⅴ－（１） 学習機会の提供と学習活動の支援	A	ふかや市民大学の卒業生への社会参加の支援及び子ども体験学習が評価されました。	58
Ⅴ－（２） 活動施設の整備・充実	A	生涯学習活動施設の計画的な整備及び新電力会社からの電力購入による公民館の電気代の削減が評価されました。	60
Ⅴ－（３） 図書館の整備・充実	A	埼玉工業大学と協力体制を構築し大学図書館の開放を実現した点及び子ども達が読書活動に親しむための各種イベントの開催が評価されました。県立高校など様々な機関との連携について提言を受けました。	62
Ⅵ－（１） 渋沢栄一翁の顕彰	B	清風亭・誠之堂などの見学者数の増加が評価されました。深谷の三偉人関連施設の改修・整備について提言を受けました。	64
Ⅵ－（２） 伝統文化の保存・継承と活用	A	旧煉瓦製造施設の整備とホフマン輪窯の見学について提言を受けました。	66
Ⅵ－（３） 文化・芸術活動の活性化	A	深谷市文化会館で開催するコンサート等の観客が満足した割合が高い点及び地域ゆかりの偉人関連事業が評価されました。イベントの集客達成率を意識することについて提言を受けました。	68
Ⅶ－（１） スポーツ・レクリエーション活動の環境整備	S	深谷市総合体育館等の年間利用者数の増加が評価されました。	70
Ⅶ－（２） スポーツ・レクリエーション活動の活性化	A	ふかやシティハーフマラソンが、一般道で開催しているにもかかわらず、事故もなく安全に運営できた点が評価されました。	72

平成 27 年度
教育委員会の事務執行に関する点検評価報告書

発行 平成 27 年 11 月
編集 深谷市教育委員会

〒366-0823

深谷市本住町 17-3

TEL 048-574-5811

FAX 048-574-1744

